北支



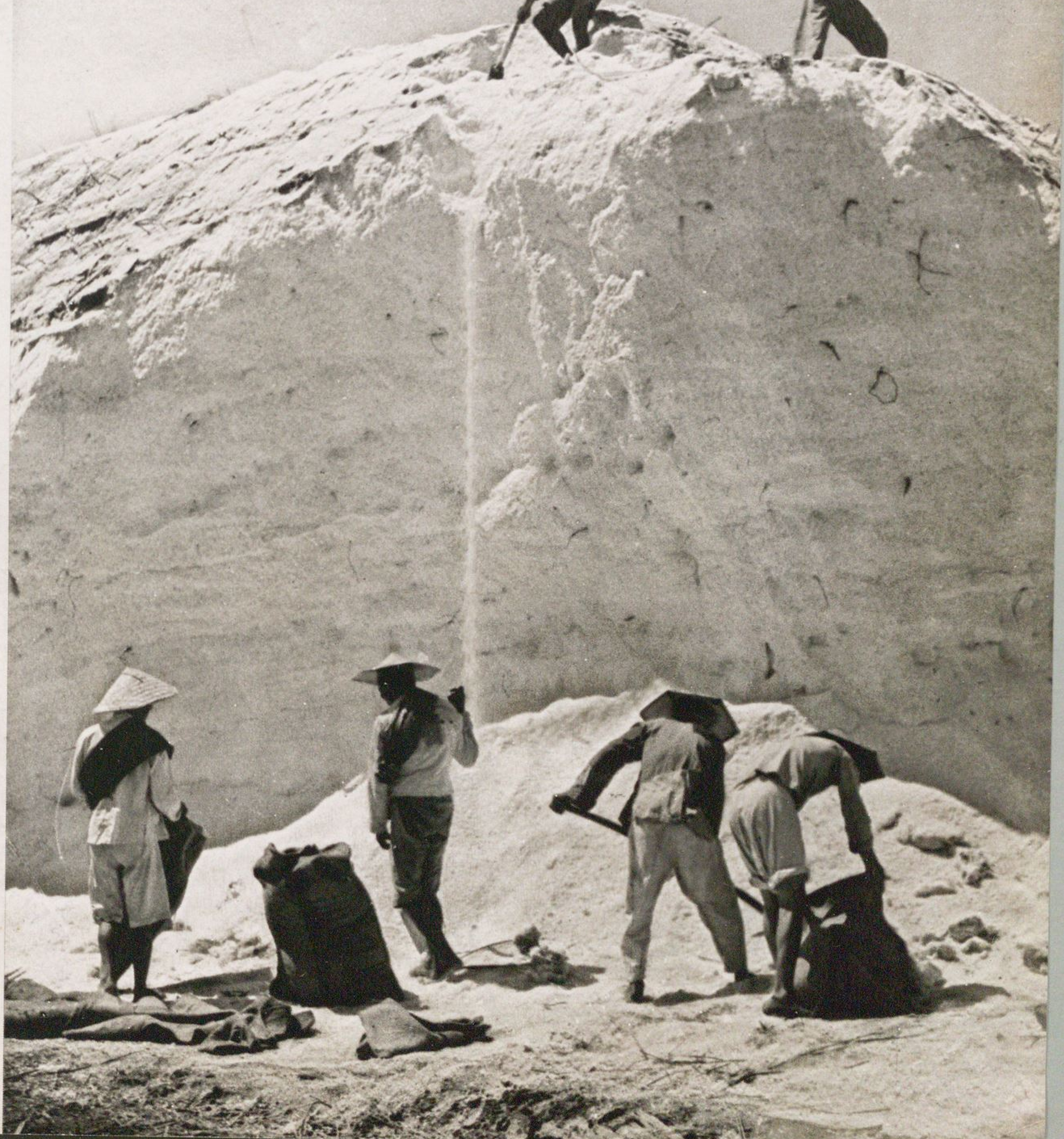
現地編輯

THE NORTH CHINA

10 2

1 海州鹽

Salt-Farm, Hai Chow.



鹽の山



輸送貨車への積込

鹽は食糧として又化學工業原料として平時・戰時を問はず絶對必要なものである。我國の最近に於る需給關係を一瞥すれば、內地の產額は平均六十萬瓲に對し、食糧として年々消費される分が八十萬瓲餘で不足量二十萬瓲餘は臺灣、北支（長蘆・山東）から補給してゐる。工業鹽に到つては全く移・輸入に依存してゐるわけで、來年度の需要高は染料・曹達其他の化學工業の躍進を考慮に入れて最小限二百四十萬瓲と推定されてゐる之に對して近海鹽の入荷は昭和十四年度六十二萬瓲、十五年度五十六萬瓲で、殘餘はアフリカ其他の遠海もので補つてゐる實狀であるが昨今に於ける鹽資源自給の必要上茲に北支の鹽が重要な役割をもつことになる

北支には蒙疆の陸鹽と、渤海沿岸の長蘆鹽、青島一圓の山東鹽及海州鹽等の海鹽があり、開發次第で各々莫大な生產力を發揮する素質を備へてゐる （次頁へ）



海水を汲入れる手廻し水車

2 海州鹽

海州鹽場は江蘇省北部の沿海地方、北は山東省境から南は舊黃河口附近に到る海州を中心とする南北百三十キロの黃海沿岸に亙り雁北・雁南に分れてゐる、濤青・板浦・中正濟南の四鹽場があり、濤青は唐代に開設された臨洪と明代に增設をみた興莊とを清代に至り合併し更に民國二十二年山東の濤雄を併せ現在の規模となつたもので山東省日照縣から江蘇省贛楡縣・東海縣に



風　車（海水汲入れに用ひる）

跨つてゐる。板浦は元代以前から開かれてゐたもので江蘇省灌雲縣の北方三十キロの所にある。中正は清代の開設で灌雲縣の東南三十キロ、濟南は清末に雁南の產鹽が漸減したため、それを補ふべく民國元年灌河東西岸地區に荒廢鹽田を復活したものである

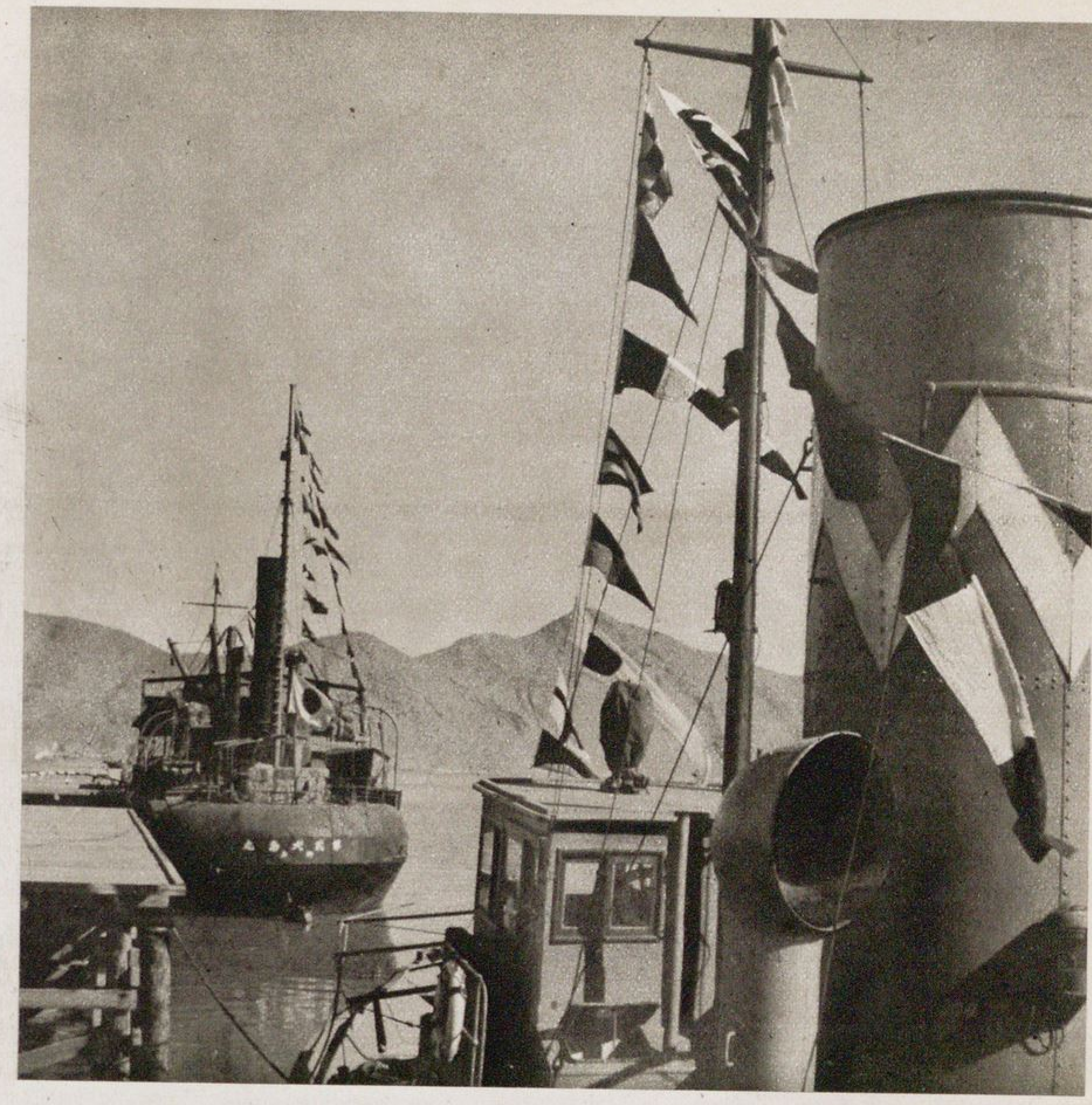
生產高は民國十七・八年頃には五十萬瓲に上つてゐたが其後鹽稅政策による生產制限を受け、續いて今次事變に遭つて二ケ年間移出は杜絕し、業者の苦境は其極に達した。昭和十四年三月皇軍の威武同地方に及ぶに到り政治經濟工作の見地から鹽業復興の急を認められ、八月には華中鹽業會社が創設せられ、茲に日本人が直接鹽業に關與する事となつたのである

本鹽場は殆んど一年を通じて操業し得ること、土質良好、鹽田適地廣く綜合經營に有利且開發の餘地充分なる事及廣大な背後地を控へてゐる等の所謂立地條件に惠まれてゐるから其將來は刮目すべきものがあらう

Lien Yun Harber



往時を偲ぶ倭寇の墓　―西連島―



連雲港

連雲

支那大陸を東西に横斷する隴海鐵道は西安・蘭州を經て遠く中央アジアにも及ぶべき將來性をもつものであり、連雲港はその起點である。嘗て帝政ロシアは東方政策の足場を此處に求めんとした事實があり、舊國民政府は上海や青島に對抗する人口百萬の大港灣都市たらしめんと計畫してゐた。滿洲事變直後、壺蘆島の築港材料を充當して連雲の築港を起工した蔣政權は、以來對日作戰の據點としてその擴充に努力してゐたのである

昭和十三年五月、わが海軍陸戰隊の果敢な敵前上陸によつて占領さるゝ直前支那軍は隴海線と共にその港灣施設の大部分を破壞し去つたのであるが、昨年三月陸軍の海州占據に伴ひ、東隴海線の開通と前後して埠頭の復舊工事に着手、同十二月にその一部完成と共に華北交通會社は連雲埠頭事務所を開設し本港の經營を開始するに至つた



西連島

—連雲 2—

連雲港は、その位置北中支の中樞に當り、廣大なる背後地には石炭、鐵、鹽をはじめ棉花、大豆、皮革等の重要資源が極めて豐富である。さらに日本内地へは下關まで約四百五十浬で、日支間の最短距離に在り、港灣の自然條件にも惠まれてゐるので、東亞の新事態に卽應する日支輸送ルート擴充の波に乘り、所謂中原の要門たるの將來を約束されてゐる。特に石炭、鐵鑛等は山元から短距離に在るので之等の對日輸出港として重要な使命を帶びてゐる。たゞ現狀は、未開港であることと配船竝に港灣施設が不十分であるため、その機能の發揮を阻止されてゐるが、之等の問題が合理的に解決さるれば前途は刮目すべきものがあらう

昔、この地方一帶が倭寇の根據地であつたことは史上顯著な事實であり、南東の夏の季節風に乘つて明初以來「八幡船」が來往してゐたのである。連雲港の前面を扼する東・西連島には、日本人の來往を物語る幾多の遺跡或は碑石が在つたが、事變前支那軍のため取毁され、今は日本人名の碑石が僅かに二、三見出されるに過ぎないといふ。しかし、島民の相貌や性質、習慣等には一般の中國人とは稍異つて一脈日本人に近いものがあると、同島を訪ねた人たちは語つてゐる



藁靴をはいた漁夫



豆腐用の大豆を挽く漁家の主婦と子供



自然の石を積み上げた家の前で魚をよる漁民

Hsi Lien Tao Isle, Lien Yun.



柳



日本では柳をあまり喜ばぬやうである
柳の下に幽靈が出ると云ふ、そんなら
銀座の柳はどうしてくれる？　何、君
銀座なんて喫茶人種と云ふモダン幽靈
の巣ぢやないか？
それはともかく、支那では柳の多さと
美しさが眼立つ。南畫によくみる江南
の柳はもとより、全支那、滿洲に亙つ
て見られるのだ。これは乾燥した大陸
に、強靱な柳の生活力が堪へて來たも
のと思ふが、一つは支那民族が性格的
に好んだのではないか、柳に風折なし
と……
北京では萬壽山街道の並木、內城三海
の柳が見事である。殊に二月の春萠と
五月柳絮の季節は素晴しい

寫眞は什刹海附近

紫禁城の獸



←金色の麒麟（欽安殿前天一門）



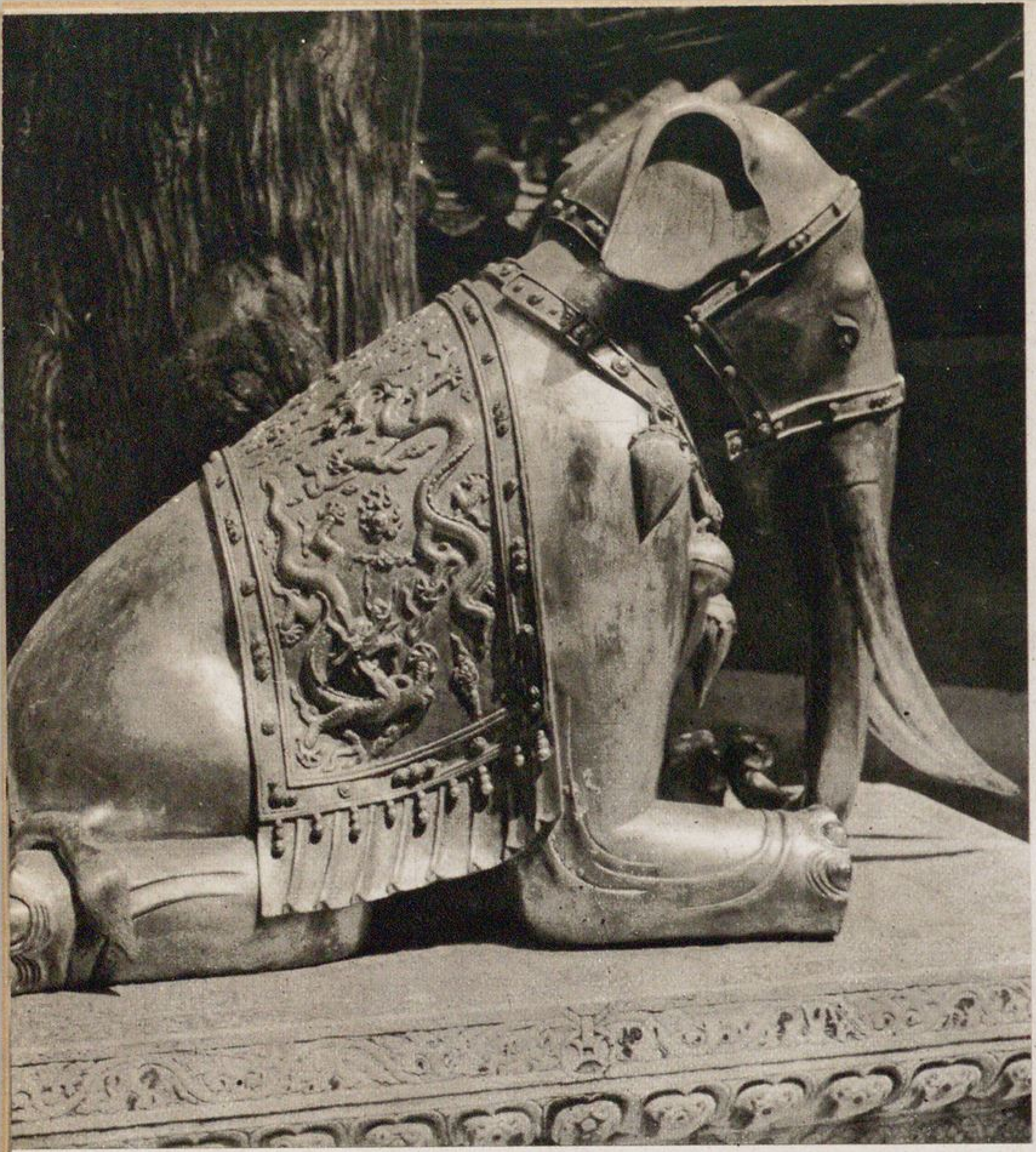
↑脚の下に玉を持つた金色の雄獅子（乾清門の右側）

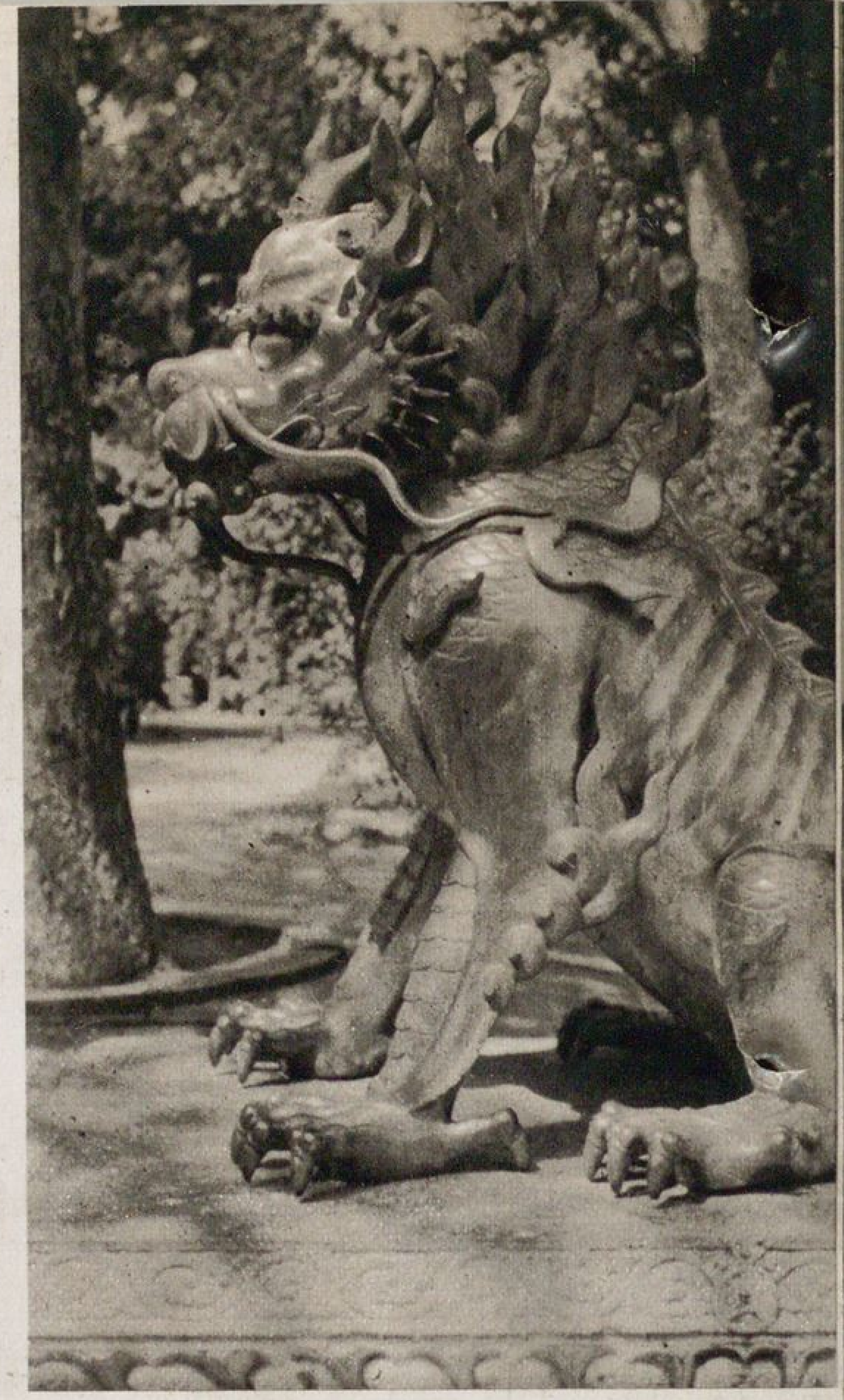




→仔獅子をおさへた金色の雌獅子（乾清門の左側）

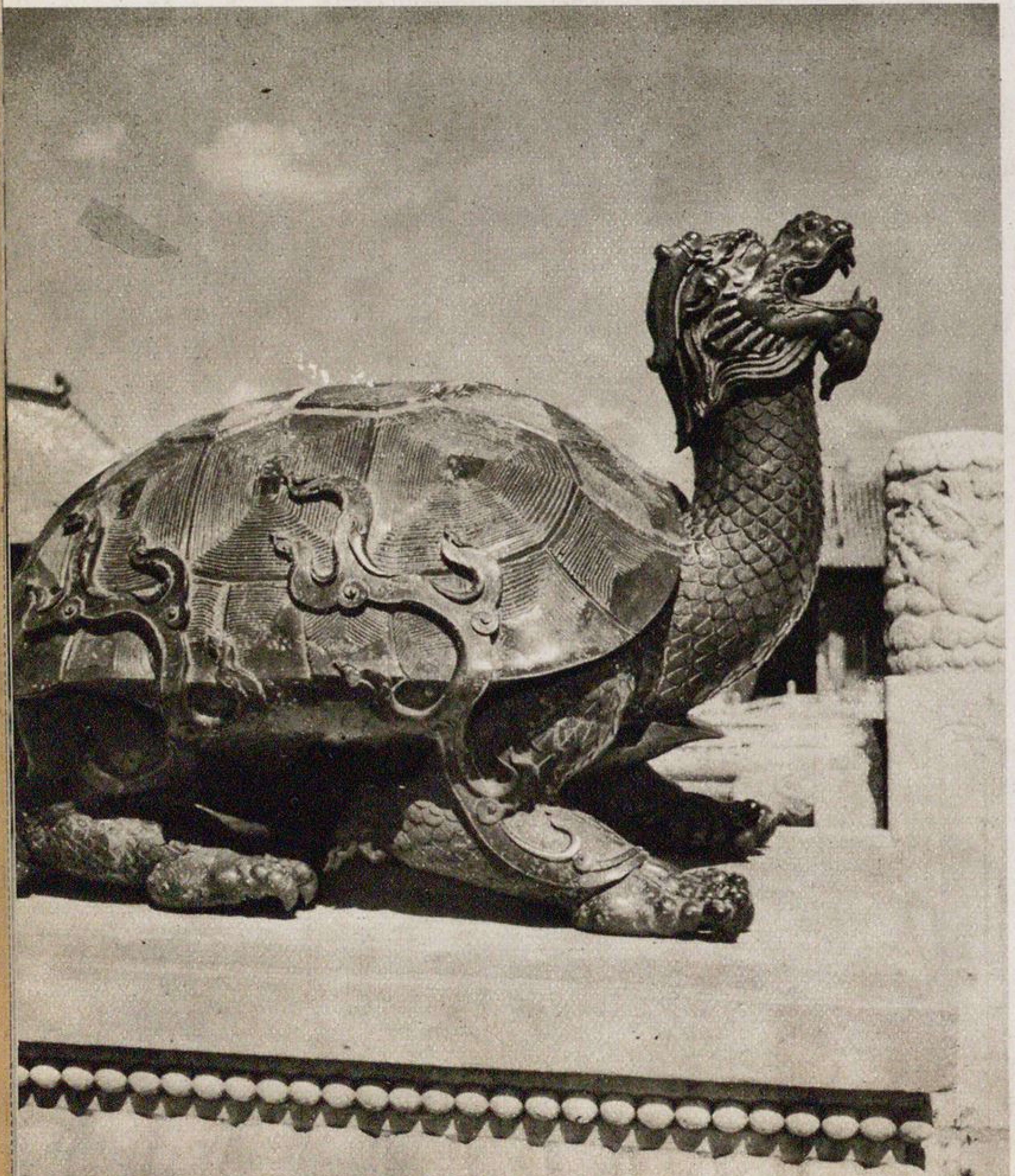
Carved Animals in the Forbidden City, Peking.



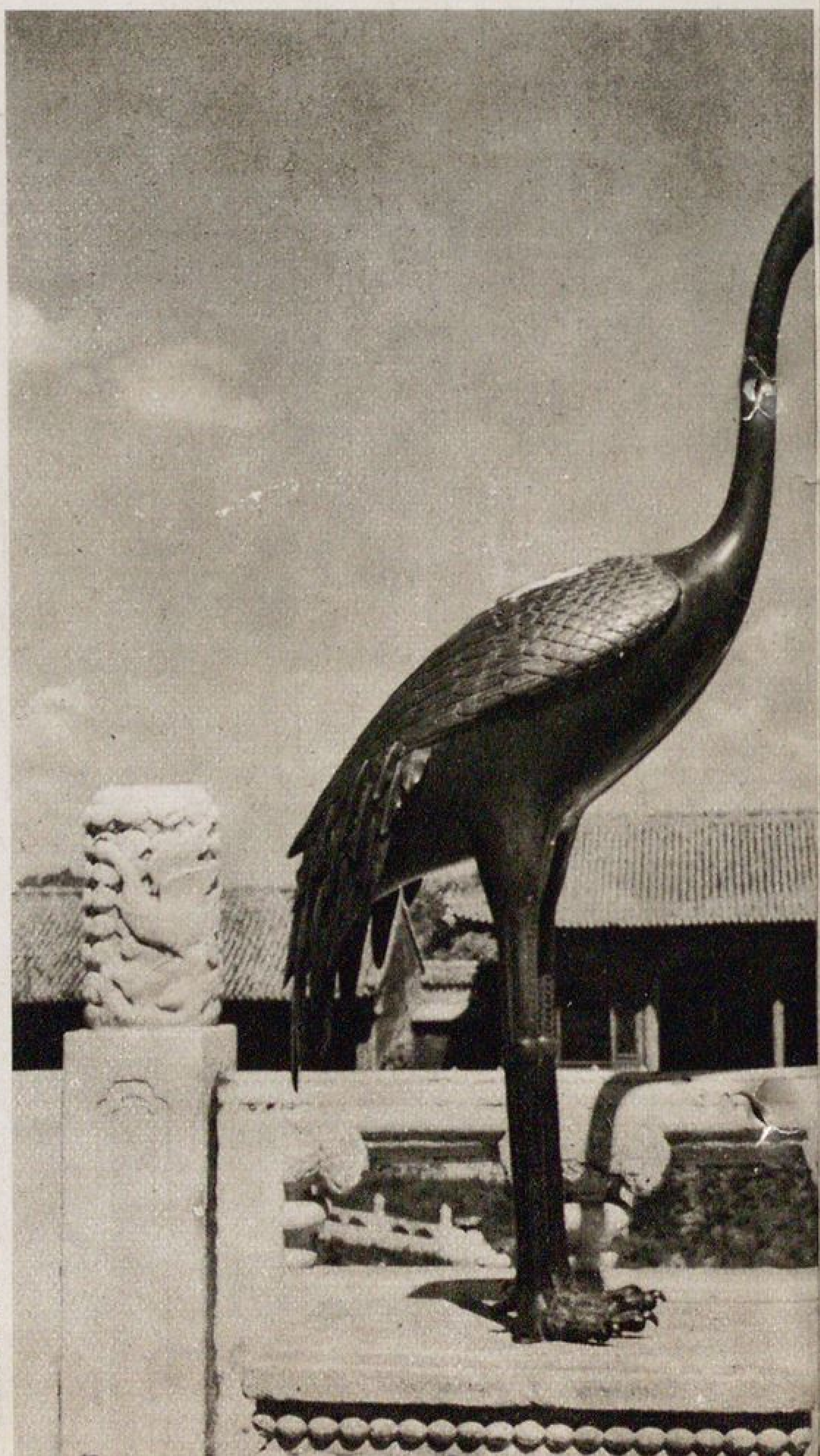


↑金色の象（承光門）

↓銅鶴（太和殿前）



←銅龜（太和殿前）



厚生列車 1



廉賣車に群る村民 —同蒲線—

Wellfare-Train, N. C. R. Co.



廉賣車の雑沓 —同蒲線—

あらゆる艱苦を征服しつゝ、前線警備の重任を全うする皇軍將士はもとより日夜匪襲や酷暑に攻め苛まれながら毅然として死線を乘り超えて戰ふ前線社員や、その家族達をはじめ、民鐵一路に眼醒めた三千萬の愛護村民に對し、慰問と激勵と福祉增進とを目的として馳ける華北交通の列車を厚生列車、また一つには、愛路列車とも呼んでをります。列車のサンタクローズです。春霞漂ふ中に、或は晩香玉かをる夕暮に、このサンタクローズは、どんなにか沿線住民の待望の的となつてゐることでせう

汽笛が鳴ります

やがて厚生列車が、徐に辷りこんできます。どツと立騒ぐホームや驛構内の人、人、人、湧き上る萬歳の嵐にもまれて日章旗が、華北交通の社旗が、愛護村旗が、風に舞ひ狂ふ落花のやうに飜つてをります。まことに歡喜の一刹那です。二輛の慰安車からは、賑かなブラス・バンドが流れ、映畫や演藝が華かに公開されます（次頁へ）



キヤラメルを配る ―隴海線―

Wellfare-Train, N. C. R. Co.

厚生列車

2



販賣車の入口にかけられた看板 —隴海線—

一輛の施療車には不幸な病人達が泪を流しながら押寄せてをります。かと思ふと二輛の産業車には、愛護村民が犇き合ひながら愛路講演に拍手したり、養鷄や養豚の生きた見本に驚歎の聲を放つばかりです。一輛の食堂車では附近の警備隊長をはじめ官民有志を集めてのなごやかな座談會が開かれてをります。はじめての洋食にうろ〳〵とまごついてゐる髭の愛護村長もあります

四輛から成る販賣車では麥粉、石油、支那茶、砂糖、燐寸、サイダー、ビール、醬油、吳服反物、靴下等々日常に於ける生活必需品がすくなくとも市價の三、四割安で購へるので、鈴なりになつた群集は、まるで戰場のやうな大騷ぎです。金銀糸いりの綺麗な支那靴を手に、胸元をわく〳〵させてゐる明眸の姑娘、キャラメル、玩具などを手に雀躍りして走り廻る小孩、苦虫を嚙みつぶしたやうな老頭兒の顏までが、今日ばかりは惠比須顏です。厚生列車はこのほか附帶車十一輛を有し、全部で二十三輛連結され、販賣員や乘務員、警備員、その他の關係者等、およそ七、八十名の係員から成る大所帶であります。綜合福祉を積んだ厚生列車は、かうして次から次を、およそ半年に亙つて、明朗と平和との旅をつゞけて廻るのであります



雨中、日の丸を振つて愛路村民の出迎 —隴海線—



第三窟

石佛 —大同—



第五窟

Stone Buddha, Ta Tung.

泰山



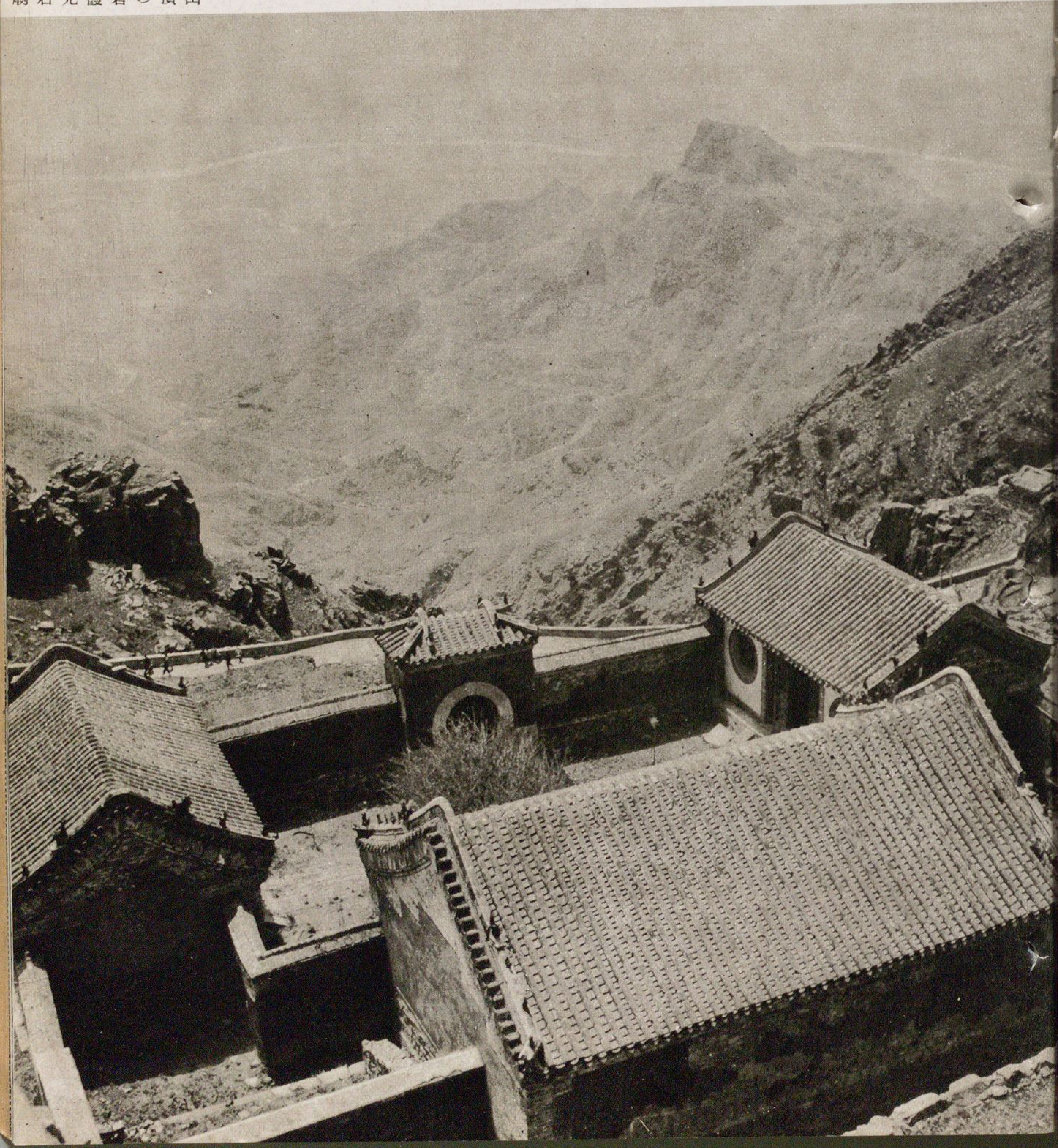
南天門

津浦線濟南の南方七十二キロにある泰安驛のすぐ眼の前に聳えたつ一大岩山が支那五嶽の長とされてゐる泰山である。泰山は靈山として日本の富士山の如く國民的な崇拜を受けてゐる山で、その山神は人間の生死を司ると信ぜられ支那各地に東嶽廟として分祀されてゐる。山頂には玉皇頂、東嶽廟、碧霞宮等、諸神を祀つてある。その中の碧霞宮は泰山の本廟で泰山王女といふ女神を祀つてあるが、この女神は滿洲の娘々(ニャンニャン)のやうに、子を授け、財を賜ふといふので民衆の尊崇深く、香火盛大である

泰山は海拔一五〇九メートル、山麓より頂上まで約十二キロあり、登山路は石疊と六千七百有餘の石階から成つてゐる。泰山を少し精しく見物するには山中に五、六泊しなければならないが普通の見物客は十時間位でひと通りみることが出來る。登山は轎子即ち駕籠によるのであるが、この轎子は平地で用ひられる轎とは全く異り、籐の肱掛椅子の中央部兩側に長い棒を通した特異なものである

The Top of Tai-Shan.

山頂の碧霞元君廟





鯽・北京安定門外

秋

Autumn



羊・北京西直門外

收穫

Harvest



陰山山脈の麓、漢民族部落の麥打



賣卜者



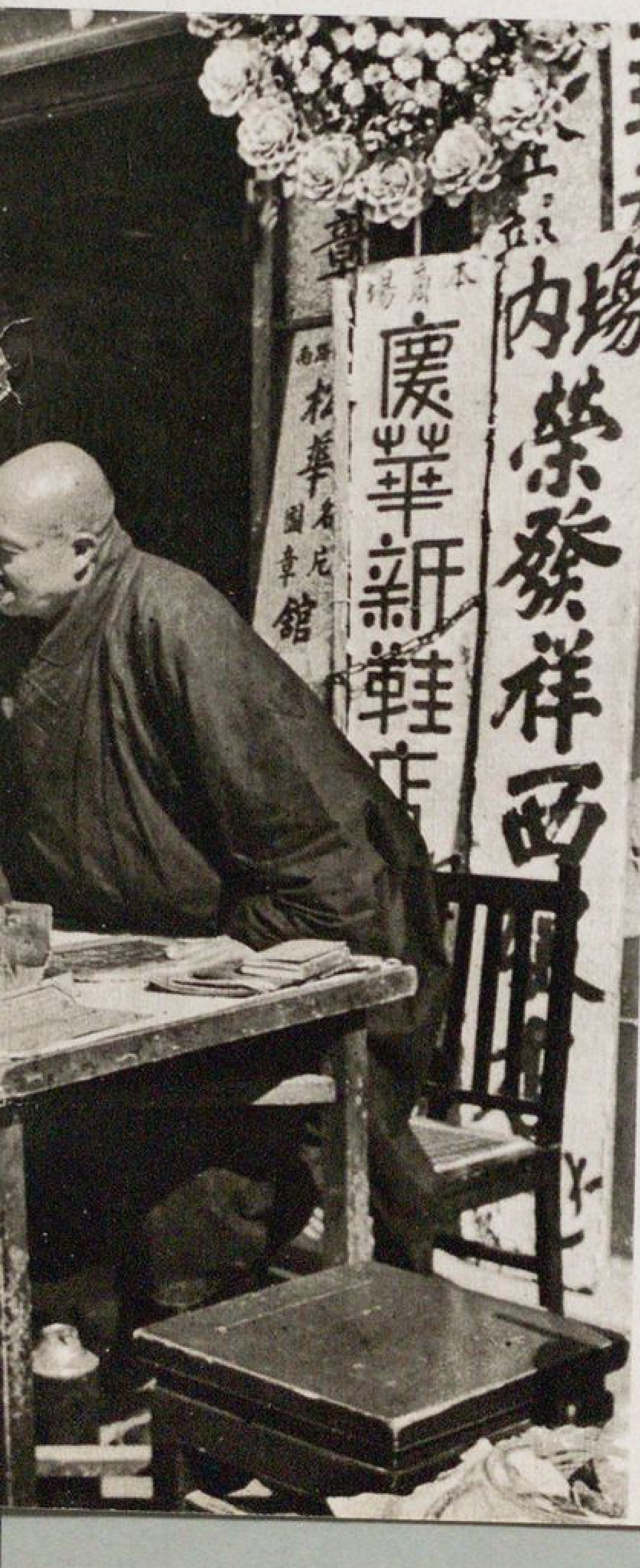
→八卦（法術）



鹿爪らしい顔をした占師が路傍に机を出してゐる。通りすがりの太々（オクサン）が十錢玉一つも出すと、勿體振つた樣子でヂヤラヂヤラとやる。これを一般に算命先生とか相面先生とか云ふけれども、實は隨分種類が多い。それは机の前に垂らした看板布（？）と机の上の商賣道具の種類をみても分る。日本人は今でこそ賣卜者などと輕蔑してゐるが、支那ではまだまだ民間に根深く普及して居り勢力をもつて居る

大にしては支那歴朝の天子も豫言書を信じて朝廷の前途を憂慮された事實が歴史に見える。近くは張作霖、呉佩孚もその進退に當つて「扶乩」（ウラナヒ）を用ひた。元來支那では社會人事の萬象を豫測することが出來ると信ぜられてゐる。宇宙の現象は常に動いてやまぬが、それは必ず一定の法則と理由あつて變化するので、これを社會人事に及ぼすことが出來ると云ふわけだ。天は宇宙を支配し、人間の運命を左右する、故に人間萬事天意に從はねばならぬ。然らざれば破滅だ。而して天は絶えず、四時の變遷、瑞祥異變を以てその意を示してゐるが、普通人には解し難い。故に修道者、有德者を通して人間に傳へる。これ卽ち「扶乩」による「乩示」と云ふのである

さて街頭によくみる賣卜の種類を方法から分けてみると、易卦、河洛圖數、大六壬、八卦、排八字、相面等々があり、吉凶禍福、壽命、結婚、商賣、その他身上相談に豫言をする。その方法に學理的と法術的なのとある。その虎の卷とも云ふべき種本（卽ち豫言書）で、日本に知られてゐるのは「推背圖」や「燒餅歌」であるが、その他「馬前歌」（諸葛孔明作）「乾坤萬年歌」（太公望作）「鐵冠數」等十餘種に上る。これらを總じて圖繪を主にしたものと詩文だけのと二大別出來る。尚豫言書の起源は、夏に始まるとの說、秦の盧生に始まるとの二說があるやうだが、相當古くから行はれてゐるのは事實である



相面と大六壬を兼ねてゐる

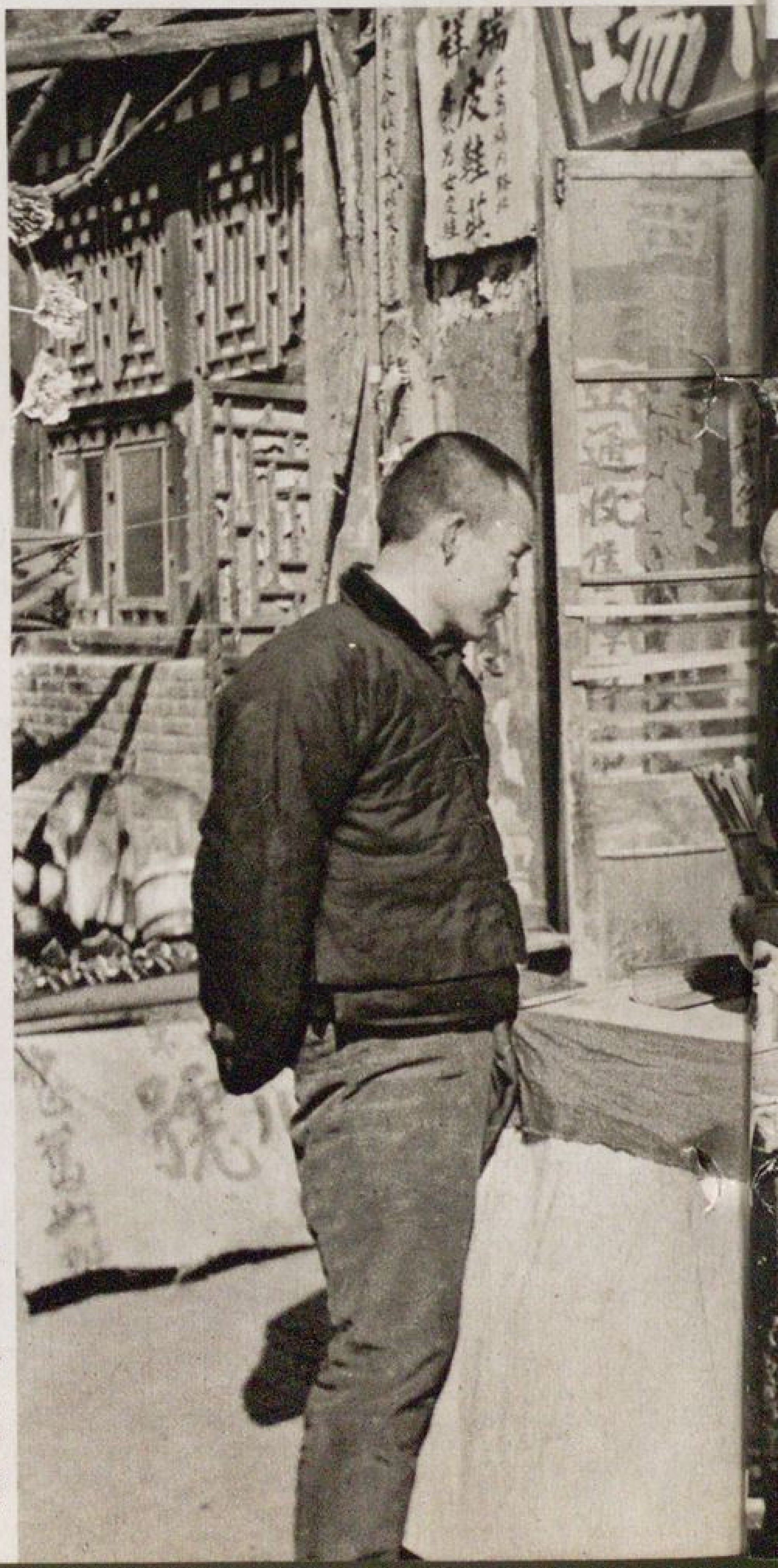


河洛圖數



河洛圖數





易卦（易經）









一輪車を曳いて人糞を集める糞夫

土糞製造

Making of Dry-Manure.

北支人口の九割近くを占める農民は其大部分が所謂零細農で、經濟的・技術的に極めて低い水準にあるので化學肥料が用ひられるのは棉花・煙草・落花生等の技術的・商業的作物に限られ、一般には土糞が用ひられてゐる

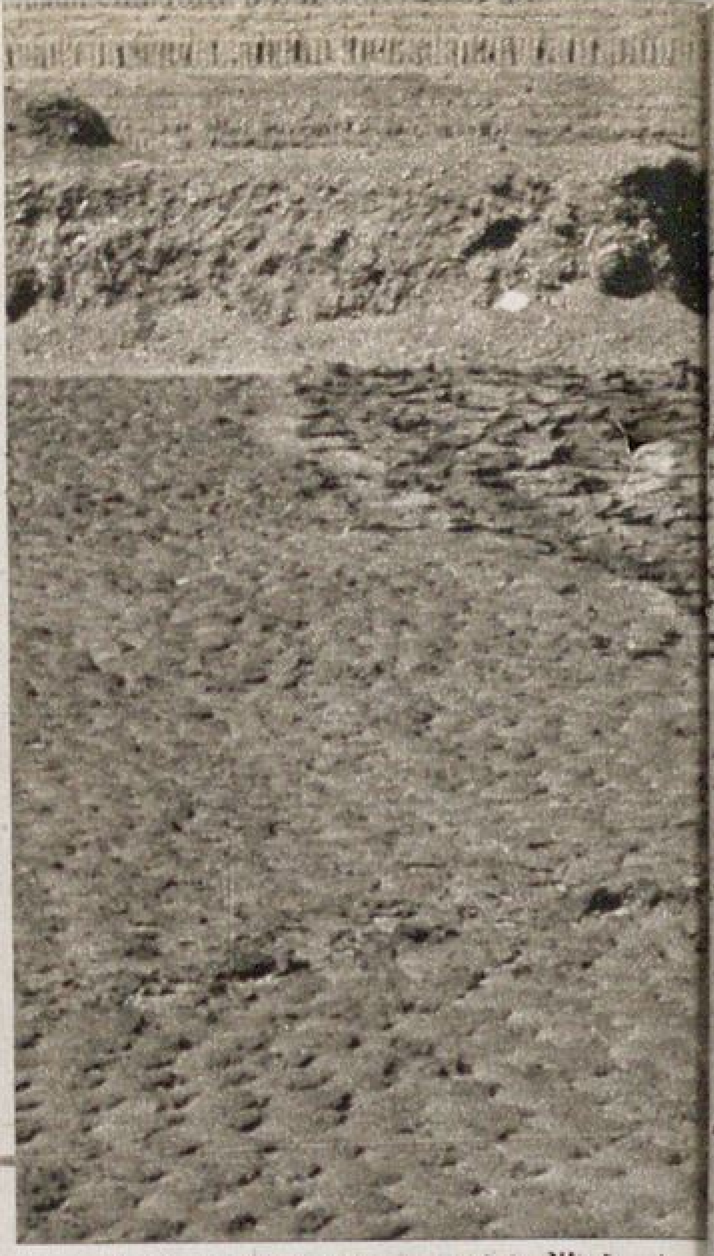
それは家畜の糞尿を主體として雜草・藁稈・人糞尿等に土を混和し腐熟させたもので各農家に於て自家生産されるのが建前である、農家のそれに費す勞力は家內工業に消費する勞力よりも遙かに多いと云はれてゐる

近年一般に家畜の飼養が減少したため人糞・厨芥等を購入して不足を補つてゐる

大都市の近郊にはこの原料たる人糞・厨芥・畜糞等を扱ふ專門業者があり各々繩張をもつて集めた原料を製品又は半製品として農家に賣るのであるが、原料によつて、固形物又はそれに近いものは熟糞として乾燥させ所謂糞餅と稱する製品に作り、液狀のものは生糞と稱し或程度腐熟させてそのまゝ賣却する。生糞の方は各農家に於て一定量だけは自家生産されるものであり、運搬も不便であるから近來は既製品としての糞餅の方が賣行がいゝさうである



↑麻袋につめて



↑人糞を天日にて乾燥させる



↑農村へ馬車で運ぶ



↑人糞を泥とこね合はす



畠へ糞土をまく農夫



うず高く積みあげた糞土

盜掘した石炭を運搬するロバ





石炭を運ぶ子供

埋藏量百二十億と云ひ或は四百億噸とも云はれる世界有數の大炭田大同炭礦の一隅には土民の手による採掘・輸送の原始的な組織がある

盜掘と云ふと石炭泥棒のやうな感じであるが、當事者にとつては昔から自然に發生した採掘權によつて掘つてゐるつもりかもしれない。炭礦當局では追々と此等の權利を買收しつゝあるがまだ一部殘つてゐるものがあり堂々と盜掘をやつてゐる

規模は極く幼稚なもので行當りバツタリにみゝず式に掘つてゆき運搬に都合のいゝ大きさのものだけを苦力の背によつて坑外に運び出すに過ぎず、中塊・粉炭は坑内に置放しである

販路は主として附近土民の自用向で市價よりずつと安く賣られてゐる

Secret mining of coal, Ta Tung.

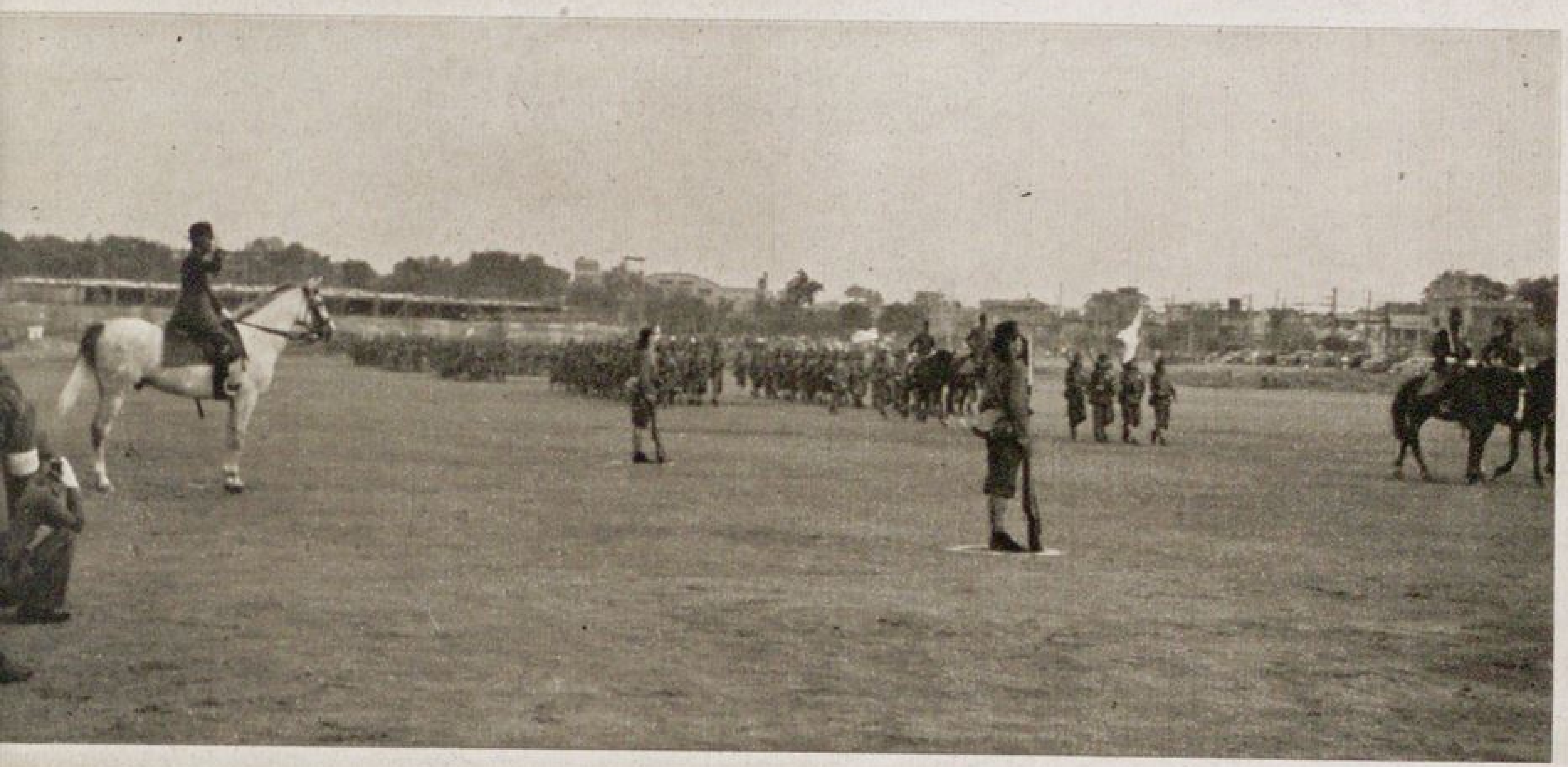
石炭の盗掘 —大同—



大きな歴史 小さな歴史



新民會再發足
八月十七日、華北政務委員會委員長王揖唐氏は新民會長に正式就任した。同氏は防共興亞和平建國の内外二大任務達成のため委員會と新民會の關係がさらに强化されるべき旨强調した



↑**興亞學生勤勞報國隊**
八月二十五日北京に到着した興亞學生勤勞報國隊一行八百廿五名は入京第二日目二十六日午前十時から中國側學生百四十名と共に多田北支軍最高指揮官の閲兵を受け堂々分列行進を行つた



→**土俵も實戰さながら**
「戰場へ行く氣持で相撲をとりに來ました」と前田、安藝以下東京大相撲一行は酷暑の大陸各地に皇軍慰問の巡業を行つたが、各地で將士の大歡迎を受け、實戰さながらのハリキリ方であつた

Photo Flashes from North China

英兵引揚げ

八月九日、英國が帝國政府に通告し來つた北支、上海の駐屯軍引揚げに先鞭をつけて、北京では同十三日大使館護衛に六名を殘し、小雨の中を四十數名が臨時列車で引揚げた




無敵！國產第一位
ムッソリーニペン
新生國策イリヂュウム白金ペン付
クラウン万年筆
書きよく
體裁優美
構造堅牢
流線型
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國產の逸品！
大阪 株式會社 澤井商店
北京 北海公園

五臺山由來記

小野勝年

文殊菩薩の靈場として山西の五臺山が古くから我が國の人々の間にも知られて居ることは言ふ迄もないが、實際のところ直接此處を巡歴した人は主として佛教關係の極く少數の人に限られてゐた。然るに事變以來此處も亦皇軍に依つて保護され、その結果舊時に比して著しく容易に詣でることもでき、此處に關する幾多の知識が一般に齎され、國內の人々にとつても亦親しみの地、聖なる地として見られる樣になつた。自分なども直接その恩惠を蒙ることの出來た一人である。

偖て六月大會とは何であらうか。これは實は喇嘛教の行事で、陰曆の六月六日から十五日に至る十日間、諸佛特に文殊菩薩を供養し、そして普く衆生が正覺を得んことを願ひ、兼て風雨の順調や五穀の豐饒を祈る大誓願會である。かうした行事が西藏で行はれたのは黄教の開祖宗喀巴の時であつたと云ふが、それが第五代達賴喇嘛に依つて五臺山でも行はれることとなつたのである。第五代達賴喇嘛は明の萬曆四十四年に轉生し清の康熙二十一年に示寂した。卽ち彼は清朝の勃興期から隆盛期にかけての人であつた。

滿洲國の滿洲は文殊菩薩の文殊の轉音を寫したものであるとの說は殆んど一般に信ぜられる迄になつてゐる。然らば清朝開國時代彼等の間に文殊菩薩の信仰が盛んであつたことが窺はれるであらう。太祖の時、達賴喇嘛が書を致し、帝を尊んで曼殊師利大皇帝と稱したといふ傳へもある。もし實際だつたとすると此の達賴喇嘛とは第五代であるに相違ない。かくて彼は清室と漸次密接な關係を結ぶに至つた。それは單に信仰上の問題ばかりでなく政治的意味をも含んだものである。北京北郊にある黄寺は彼の爲に態々創めたもので、順治九年遠く此處に來た彼は翌年迄滯在してゐる。かうしたことが六月大會開始と何等かの連繫を持つたものではあるまいか。順治帝は在位中遂に五臺山行幸の機會を有しなかつたが、順治十二年及び十四年の二度に喇嘛をして祝國佑民道場を修せしめてゐる。これが或は今日菩薩頂で行はれる勝會道場と關係があるのかも知れない。然し若し六月大會の開始が順治時代でなかつたとすると康熙時代のことだつたであらう。精勤英邁な帝は西北政策に對する見地から喇嘛教喇嘛僧に就いての工作を眞劍に行つた。五臺山に於ける喇嘛教保護の事業なども其の一例で、今日此處を訪ふと有名な五臺聖境の石坊を始め御製の碑記頗る多く、寺院中彼の手に依つて重修し新築され現存してゐる殿宇も尠くない。帝が親しく巡歴されたのは康熙二十二年で、その年は第五代達賴喇嘛が示寂した翌年に當る。然し六月大會の開始を康熙時代と解するには何等差支へはないであらう。清朝に於ては勿論否な歷朝を通じ、その目的は兎に角として、康熙帝ほど五臺山を保護した天子はさう多くはなかつたからである。だから六月大會は順治か康熙の何れかに開始されたのであらう。

五臺山の寺院は青廟と黄廟とに區別されてゐる。青廟とは青衣僧卽ち支那僧の住する寺院であり、黄廟とは黄衣を着けた喇嘛の寺院を指す。然るに寺院が總べて明白に區別出來る譯ではない。興味あることには顯通寺、塔院寺、

內容

圓照寺、殊像寺等の名刹は前面は靑廟となつて居るにも拘はらず、後方では喇嘛式佛像を安置し喇嘛が念經してゐると云つた次第だ。こゝに五臺山佛教の性質が看取されるであらう。思ふに喇嘛教が此の地に盛大となつたのは淸朝以來のことではあるが、然し此の教が始めて輸入されたのはそれ以前からだ。寫眞で屢々見る彼の塔院寺の白塔が喇嘛式であることは何人も首肯するところであらう。この塔が重修されて現狀の如き形を示すに至つたのは、明の萬曆十年以來のことである。確實な證據がある譯ではないが、自分は喇嘛教が此處に行はれる樣になつたのは矢張り元時代からではあるまいかと考へてゐる。元代は蒙古人の間に喇嘛教が弘布した時でもあるし、また世祖初め歷代五臺山を保護すること厚く、成宗英宗の如きは親しく此處に行幸されて居るのである。然し乍ら當時此處に住した名僧として知られて居る正順・眞覺・弘教の諸大師は皆な靑衣の人々である。從つて喇嘛教が行はれたとしても全臺を風靡する程でなかつたことは勿論である。こゝにも亦五臺山佛教の特質が表はれて居る譯だ。

現在靑廟の宗派は臨濟宗が主だと云ふ。臨濟宗は言ふまでもなく禪宗の一派で、唐末今日の正定から始まつた宗派である。正定と五臺山とは地理的にも關係が深く、慈覺大師の如きも現に正定から龍泉關を經て參臺してゐる。從つて臨濟宗が此處に行はれて居ても別に異とするには足らない。然し現在支那佛教界を見ると餘りに嚴密な宗派別と云ふものはないらしく、一口に臨濟宗だと云つても相當融通性に富むものの樣である。現に淸末の普濟和尚は此處に於て釋儒道を混合した樣な教義を說いたと云ふ。宗派觀に對する融通性は現在のみに止まらず、既に唐代に於ても見られたところであつた。一山に禪あり、密あり、念佛あり、時に華嚴を宗とし、天臺を唱ふといふ有樣であつたことは「入唐巡禮求法行記」を讀めば直ちに察せられる。

「東北方に菩薩の住所あり。淸涼山と名付く、過去の諸菩薩常に中に於て住す。彼に現に菩薩あり。文殊師利と名づく。一萬の菩薩眷屬あり。常に爲に說法す」（「舊華嚴經」）。「我が滅度後、此の瞻部洲の東北方に於て國あり。大振那と名づく。其の國中に山あり。號して五頂と曰ふ。文殊師利童子遊行居住す」（「文殊師利法藏陀羅尼經」）と。かゝる經文を信ずるものに於ては五臺淸涼山は文殊降臨の聖地でなければならぬ。從つて國境の如何、民族の如何を問はず、信徒は此處を聖地とする譯であり、五臺山佛教の特質たる抱擁性もかゝる立場から理解される。從つて、本土たる支那では勿論、印度、西域、西藏、蒙古、滿洲更に我が國に到る迄この聖地を渇仰すること論を俟たないのである。唐の昔、印度の佛陀波利が此處に至り、老人に遇ひてその言を聞き、陀羅尼經を求めんが爲に直ちに引還し、更に七年を要して再び來つた物語りは信仰の强烈さを示して餘りあるものである。その他諸國の求法僧の此の地に至つたことに就いては枚擧するに遑はない。我が國にあつても靈境寺に於て悲劇的な最後を遂げた靈仙三藏を初めとして、圓仁あり、奝然あり。その著名な人々を數ふるも十指に近いであらう。

歷史の舊さに比較して古碑古物の尠いことは既に人々の指摘するところで、唐のものを有する所は佛光寺ぐらゐなものである。臺懷鎭附近では自分が採り得たものは北宋のものが最古であつた。以後金元明、漸く明の中葉に至つて數を增すが、其の以前は實に寥々たる有樣である。然るに此の寥々たる中に於て至元年間の阿麻剌室利板的荅の建寺碑、永樂年間の釋迦也失の建塔記が數へられる。彼等は共に印度出身の佛僧である。更に塔院寺の萬曆十年宰相張居正撰の碑記には、當時蒙古の俺荅汗が衆を率ゐて五臺山に行き進香せんと欲したことが見え、「そもそも醜虜の嗜は其の天性であるが、一旦にして彼の凶懸を革めて我が好音に懐くに至る。臣は是を以つて佛氏の教は皇度を陰翊するものだと考へる云々……」と勝手な熱を上げさして居る。俺荅汗が果して參臺を許されたか否かは未だこれを明かにする餘裕を得ないが、これに依つても支那以外に於ける五臺山信仰の一般を示して餘りあらう。

山中、現在幾多の寺院を存するが、其の中心は臺懷鎭附近で、而も更に極限するならば、顯通寺であると言ひ得よう。今の顯通寺は前後七層の伽藍を有する閎壯稀に見る寺院である。傳ふるところに依れば其の創建は後漢の明帝永平年間で、當時は大孚靈鷲寺と稱した。其の後北魏の孝文帝はこれを重修して十二院を置き、唐代に至つて大華嚴寺と改めた。慈覺大師は其處に十二院の存在したことを記し、庫院・涅槃院・般若院・菩薩院・閣院・善住閣院の六院の名を擧げてゐる。菩薩院が卽ち現在の菩薩頂眞容院、閣院が塔院寺、善住閣院が顯通寺自身を指すのである。唐代に於ける大華嚴寺の伽藍の

壯大なる想像に餘りがある。宋代には眞宗此處に詣でて大花園寺の號を賜ひ明初には大吉祥顯通寺、後更に永明寺と稱し、現名顯通寺となつたのは康熙二十六年以後のことだ。偖て、これに依ると五臺山の開基は後漢にまで溯る譯である。果して然るか。實は、大孚靈鷲寺等が後漢の明帝に創めらるとの說は唐の道宣以來で、更に漢の明帝の時に印度の僧侶摩騰が天眼を以つて五臺山に阿育王塔のあるを知り、帝に奏して建立せしめたと云ふのが宋の妙濟大師の著した「廣淸凉傳」に見える。然し、唐の沙門慧祥の「古淸凉傳」にはかゝる說は無い。後者に依ると淸凉寺も大孚靈鷲寺も佛光寺も悉く北魏の孝文帝が創めたものであると記してゐる。而も猶「水經注」其の他の記事を引用し、元來此處が神仙と關係の深かつたことを述べてゐる。五臺山が神仙と關係のあることを認めたのは道宣なども同樣で、彼は其の著「三寶感通錄」に五臺山は神仙の宅であつたと稱してゐる。これを他の方面から考へて見ても、支那で文殊菩薩の信仰が行はれる樣になつたのは東晋時代以降と云ふのが通說である。平城〔大同〕から洛陽に遷都した北魏の孝文帝時代の情勢を併せ考へるならば慧祥記述の、愈々正確なるを覺える。果して然らば五臺山の開基は北魏時代からであらう。

五臺山に至る道路は古來四つあつた卽ち東西南北の四道である。東道は繁峙から峨口鎭を經、西臺下を過ぎ獅子窩嶺を通るものである。西道は河北省曲陽阜平二縣を經、龍泉關長城嶺を越え、淸水河に沿うて至るものである。我が慈覺大師や康熙乾隆嘉慶等淸朝の天子は皆此處を通過した。南道は五臺縣城より南大賢、虒陽嶺、醬房村柳院村を經て金閣嶺を越えるものである。慈覺大師は巡禮の歸途、此の道をとつた。北道は繁峙より南峪口に至り、華嚴水に沿うて溯り野子廠を經、北臺下華嚴嶺を越えるものである。野子廠は宋代寶興軍の所在地である。我が善慧大師成尋は此の道を往復した。

去る七月七日北京を發つた自分等の一行は中途雷雨の妨げるところとなつて難行し、臺懷鎭に入つたのは十八日の午後であつた。此の日南道と北道とからトラックを連ねて同時に入臺したのであつた。自分等は南道によつた。古道とは必ずしも同一ではない大峪溝から山の中腹を進み金閣嶺を越えると南臺が直ぐ頭上にあつた。重疊たる山嶽の景觀は實に雄大である。臺下を通つて峪間に下る。山が兩側から狹まり雨上りの綠草は生き〳〵とし、青苔の如く美しかつた。空氣は冷めたくひやりと肌にしみる。淸らかな水が流れてゐた。道に面した磨崖に時々喇嘛式の佛像が表はされてゐた。或は路の近く或は山頂に山麓に寺院が建つてゐた。やがて白塔が見え遂に目的地に達したのである。苦心をして來ただけに着いたときはさすがにうれしかつた。然し此の聖境に踏み入つて物足りないことが一つあつた。それは此處にも亦欝蒼とした森林が無いと云ふことである。文獻に依ると曾ては相當あつたらしいそれが何時の間にか伐採され、今日の如くなつたのである。恐らく宋元以後のことであらう。然し此處では樹木が成長しないと云ふのではない。鎭海寺を圍む樹木の場合を見てもそれが肯かれる。松柏杆椋楊の類が現に甚だ良好に成長してゐるのだ。蓋し、歷代の天子等は佛教を保護し寺院を建立し、僧俗亦これに應じた。然し彼等は森林愛護の精神を忘却した。山高きが故に尊からず、樹あるを以て尊しとなす。植樹運動と云ふことは全く地味な仕事でその結果が現れる迄には三十年五十年を要するのである。然し聖地の復興にはかうした地味な努力を最も必要とすると信ずる。（華北交通資業局資料課員）

山西省と閻錫山

辻原八二三

かつての山西の王者閻錫山は、今日此頃何處でどうしてゐるか——山西を旅する人々及び山西を語る人々の均しく發する質問である。それ程山西と閻錫山は凡ゆる意味に於て、事變後の今日に於ても、深い因縁を持つてゐる。

彼が山西省建設十ヶ年計畫に着手した一九三〇年は彼にとつては政治的野望への大きなエポツクであつた。この年彼は反蔣の兵を山西より河南平野へ進めたのであつたが、張學良の武裝調停に遭つて太原を後に、大連へ亡命した。そしてその翌年石友三の反蔣宣言に呼應して太原に潜入し、反蔣の素志貫徹を期したのであつたが、石友三軍の敗北は彼をして郷里の河邊村に亡命閑居せしめた。然し彼はひそかに廣東派と通じて反蔣の策動を續けてゐたことは勿論である。而して彼のこの大連亡命から河邊村閑居へかけての時代は建設十ヶ年計畫の思索と立案の時代であつたと謂ひ得よう。

この十ヶ年計畫案は、山西の經濟復興の具體的な實踐方法を述べたものであるけれども、主として諸外國の優秀な科學的技術の利用を强調し、先づ自給自足を目標とする孤立經濟圏を確保して、その上に政治的な山西モンロー主義を實現しようと試みたのである。

この計畫案の數字によれば、山西は民國十六年以前に於いては、毎年省外物資の入超額七百六十九萬圓であつたのであるが、この計畫を實行することに依つて二十萬圓程度の入超に迄減じ得ると云ひ、民國二十年以降に於ては事實それ位の減少を示してゐる。

然し茲で注意を要することはかゝる入超の減少を總て彼の計畫經濟の結果であると觀るかどうかと云ふことである。彼はその縣村政策に於て山西の孤立圏を强調し、山西人の山西と云ふ排他的なスローガンを相當深刻に宣傳してゐたし、この宣傳にかくれた苛政が純朴無智なる農村大衆の負擔に於て消化されてゐたことを看過してはならない。



上海社會調査所の曲直生はこの計畫案を評して、「中國全體のためには小乘的な價値以外の何物でもない、而もその根柢は、彼自身の山西人特有のモンロー主義的な地盤獲得のためのものである」

と言つてゐる。何れにせよ民國十五年頃から二十年頃の山西經濟の恐慌を何とか復興せねばならぬと眞劍に考へたことは事實であらう。

民國成立以前の山西の經濟は、清の乾嘉以後からの山西票號の勢力圏に依存し、北は庫倫から南はシンガポールに至る迄、また外蒙、新疆方面との貿易は殆んど山西人によつて占められてゐた關係上、省外送金によりそのバランスに於いて貿易尻は却つて入超をカバーして、なほ餘剩を示す状態であつた。當時の太原、大谷、平遥、介休等の所謂府十縣（舊太原府管下十縣）の範圍には百萬長者がゴロゴロしてゐて山西經濟の頂點時代が出現したのであつた。が、榮ゆるものいつしか亡ぶでその後（民國十六年—二〇年）南洋のゴムの暴落による票號の閉鎖、ソヴエット勢力の伸張、外蒙の獨立、之に伴ふ新疆ルートの遮斷と云ふ實に目まぐるしい時局の變化、打續く天災と云ふ惡材料の續出に、山西省の經濟は急轉直下ドン底に押流されたのである。

閻錫山の十ヶ年計畫が斯る恐慌時代を漸次整理し、進んで産業開發と省經濟力の自力恢復を指標して活動を始めた具體的なものとしては、西北實業公司（民國二十二年九月成立）の設立であらう。この西北實業公司の設立のヒントは、彼が大連に亡命中我が滿鐵の合理的な綜合經營が滿洲經營に驚異的な效果を擧げてゐることを知つたのに據るものであることは、その組織と人員の配置を見れば一目瞭然であらう。

幸か不幸か民國二十六年には日支事變が起つた。二十二年から二十六年迄の四ヶ年間は姿勢の調整であり、これから本格的に所期の目的に向つて飛躍發展せんとしてゐたのである。従つてこの四ヶ年間の同公司の業務成績が山

西の經濟復興にどれ丈の役割を演じてゐたかと云ふ數字を詮索して見たところで恐らく西北實業公司の價値付けの爲の正鵠な標準とはならないだらう。

けれども、あの高原の盆地に、しかも短日月の間の思ひ切つた建設、今考へて見るだけでもすさまじきものがある。近代文化に立遅れてゐた山西人、殊に無智な農民の前に、不可思議なる黒煙を吐く近代式工場が矢繼早に建設されて行く樣相は、偉大なる力として閻錫山を神祕化せしめたに相違ない。今なほ省民に彼が實力以上に信仰されてゐることも決して偶然ではない。

事變後の今日、此等の工場は軍の管理下に、日本の資本と技術に依つて逐次操業を開始してゐる。目下全省の主要工場は四十六を數ふるし、その內容も製鐵、炭坑、セメント、電氣、機械煉瓦、製鹽、製紙、紡績、製粉、毛織皮革、煙草、燐寸、印刷、その他各種の企業を網羅してゐる。これ等の諸工場も近く西尾聲明による日支合辦の民營形態に移行されるであらうけれど、これ等の生産企業は、元來山西省自體の自給經濟を目標してゐたものでありその規模に於て之を觀るときに、日滿北支を單位とする經濟圈內に培養素を供給し得るものは、恐らく石炭位ものではあるまいか。なるほど石炭は全支埋藏量の五三%に當る千三百億瓲、鐵も一說には三百億瓲と稱せられてゐる。けれどもいくら無盡藏であるからと云つて、之が開發には資材も人も要する事であるし、治安、輸送の問題もあり、企業の採算と云ふ條件もある。之等の數字を見て驚いたり喜んだりする事は早計であると云はねばならぬ。

閻錫山の企圖した以上の樣な孤立經濟は、一面に於いて山西省の自然的な諸條件が要因となつてゐる。且つその自然的な條件は一應は誰もが陷入り易い誤謬、卽ち山西孤立經濟の可能を構想させるのであるが、往古の封建時代ならいざ知らず、今日の狀態に於いては、山西の經濟は主流としては矢張り京津經濟にリードせられてゐるのであつて、山西省だけを引離して考へることは出來ない。かつての「山の中の閻ブロツク」山西モンロー主義に彩色せられてゐた山西省は、今や日滿北支の一部として、經濟的に、政治的に、將また國防的に、如何なる役割を演ぜんとするのか、考へれば頭の痛くなるほど重要な問題の一つであらう。

閻錫山はいま何處。傳へ聞くところによれば、宣州か或は吉縣かの洞穴に住つてゐると云はれ、又一說には、重慶に人質として監禁されてゐる家族の者達と共に、我が荒鷲の爆擊に神經衰弱になつてゐると云はれてゐる。然し私の想像では、彼は忘れられない鄕土山西へは新秩序の傘下に馳せ參ずるといふ形で一日も早く歸つて來たいに相違ないと思ふ。何故ならば、今の省長蘇體仁以下省公署の重要ポストを占めてゐる人々は總て彼の舊部下であり、彼が總元締時代に於ける知日派の連中であるからである。彼等は今なほ閻錫山を「先生」と敬稱してゐる。けれども、それは懷古的な意味での敬稱であるかも知れぬ。眞實、事變後の今日彼は已に過去の男になり下つてゐるし、その政治的生命は老いてゐる。たとへ彼が、本氣になつて新秩序傘下に馳せ參じて來たとしても、往時の山西と今日の山西とは、その內容に於いて凡そ異つた條件が存在してゐるのであるから、彼を信じ彼の腕を高く評價してゐる人々も、往時の彼はこんな筈でなかつたと落膽するのが關の山であらう。

山西の西境を南流する大黃河は、閻錫山の運命を乘せて蜿蜒として歷史の興亡を眺め乍ら濁流を吐いてゐるし、太原が產んだ中唐の詩人白樂天の長恨歌はいま閻錫山の悲淚と哀感をそゝつてゐるであらう。（華北交通營業局業務課員）

北支の農村 16

麥秋悲喜

みづの・かほる

南船北馬の類句に、南米北麥といふのがある。蓋しこの句の寓意は、中南支には水田が多くて主食物が米で、北支は旱田、卽ち畑作で、主食物が小麥だと云ふのであらう。

何故北支には小麥作が多く、中南支に水田が多いかは、何も北方人が米より小麥を愛好し、南方人が小麥より米を愛好するとか云ふそんな單なる理由によつて、中南支に米を、北支に小麥を作るといふのではなくて、もと〳〵氣溫、土質、雨量等々の自然の配劑がかくさせたのであつて、適地適作の自然のことわりにほかならない。

なるほど統計數字を見ても、北支舊五省の小麥の作付は、全耕地の約四〇%に當り、その產量は穀菽類全產量の約三〇%を占め、まさに小麥は作物中の王者であり穀菽類の筆頭である。

小麥は、御承知の如く粉として所謂支那語の白麵（パイメン）=小麥粉となり、饂飩や饅頭やその他各種の食品に作つて用ひられる。味に於ても、カロリーに於ても、また主食物中の第一位に屬するものであるが、又價格から言つても最も高價な食料作物でもある。從つて、貧窮な農民は、これを栽培しても、出來るだけ自家消費を避けて市場に賣り出し、現金に換へることにつとめる。このことは恰も日本の農家が、麥や雜穀を喰つて米を賣り出すのと軌を一にする。

北支の生產小麥の幾何が農民の手から賣り出されるかは、今のところたよるべき調査數字が無いが、凡そその六七割見當が縣城や鐵道沿線都市に出廻つて、これら小麥の一部分は機械製粉に、大部分は在來の粉ひき石臼によつて製粉され、市民階級と、一部の富農達の消費に當てられる。

そこで、南米北麥の句であるが、北麥必ずしも北方人の大多數が、小麥粉を主食としてゐるといふことではなくて、むしろ小麥粉を常食とするものは一部分の人達であり、從つて北麥とは、北方には小麥が多量に作付され、生產されると解釋するのが妥當である。卽ち、北支に於ける小麥作の重要さは、作付の多いといふこと、產量に於ても第一の農產物であり、而も高價で、且つ農家にとつては最大の商品作物であるといふことである。

又これを耕地利用の點から云ふと、北支は蒙疆並に北部山西の地帶は氣候の關係から、春播き小麥の地區で一年一作であるが、それより南部の地帶は二年三作となり、小麥が唯一の秋播き多作として耕地利用上極めて重要な作物とされてゐる。

更に山東河北兩省の南部、河南省の地帶へ行くと、小麥の作付步合は七、八〇%にのぼり、小麥を裏作とする二毛作が行はれ、小麥作は耕地利用上該地帶の農業には不離不可分の作物となる。又小麥作は、草丈の低い作物であることから、夏作物と組み合せて耕地利用度を高めるに好都合な作物でもある。

北支の食料作物は、殆んどすべてが秋の稔りを待つものが多い。その內ただ一つ小麥作だけが初夏に收穫されるといふことは、さらぬだに食糧の豐かでない北支の農村にとつては、天惠の作物とも言へるであらう。

又初夏の節、小麥の收穫によつて現金が入手されるといふことは、どれだけ農家の經濟にうるほひを與へることかしれない。この點から小麥作は春から秋にかけての農家の食糧のつなぎのしろであり、又現金のつなぎのしろである。況んや秋の收穫が凶作であつた場合には、その翌年の小麥作は、北支農民にとつては、唯一の賴みの作物であり、救ひの作物であるのである。支那には古くから春窮といふ言葉があるが、この春窮を救ふものこそこの小麥の豐かなる收穫なのである。

かやうに小麥作は、北支の農村にとつて重要な役割をもつ作物であるにもかゝはらず、小麥作が他の何れの食料作物よりも豐凶差の甚しいことで、小麥作は十年のうち八、九年は凶作であると言つてもいゝ位な、そして當てにならない作物である。

このことは、北支に於ける春季の雨量の少いこと、蒸發量の多いことによるもので、年によると播種した種子の量さへも採れないで、それこそ元も子も無くするやうな場合も屢々である。又時に秋季の旱魃が禍して播種不能に陷り、小麥の作付の著しい減少を餘儀なくされることもある。

小麥作の當り年は、農民はこれを以つて天の惠みとなし、富くじにでも當つたやうに喜ぶ。だが又反對に不作の年でも農民は天命としておとなしくあ

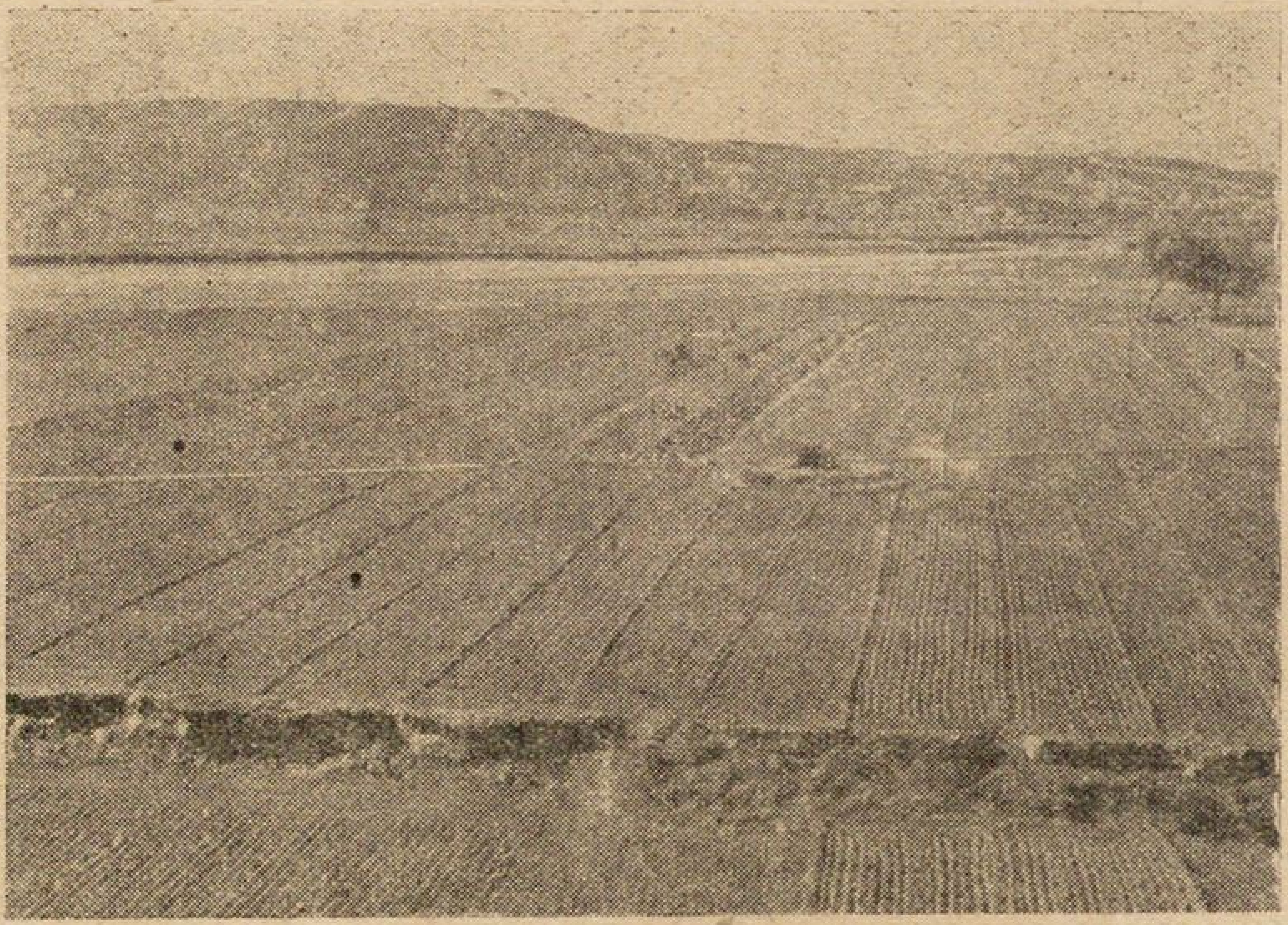
きらめる。それでも不幸にして前年秋の不作に續いて小麥までも採れないと來ると大變である。それこそ貧窮な農民は、家畜と共に草根木皮を喰ふといふ悲劇が起る。

かうなると北麥などと云ふ語句は、單に北支には小麥の作付が多いといふ、ひやかし位にしかとれない。もしも北支に作付けられる小麥が、年々せめて平年作を得るものとすれば、それこそ北麥の名にそむかず、北支は一大小麥の産地として國内の小麥需給を滿して尚餘りあるであらう。

然るに北支には、年々北支産の小麥では足りないで、夥しい外麥が流れ込んでゐる。これを事變前の統計に見ても、年額一億圓と云ふ小麥粉が輸入されてゐるのだからたまらない。さればこそ事變による小麥粉輸入の困難は、立ちどころに北支の都市を中心とする小麥粉需給に大異變を起して、市民の臺所をおびやかしてしまつた。

北支では、たゞに天津と北京の市民だけでも三百萬を越えるのだが、その半數以上は小麥粉に命を繋いでゐるのである。事變前一袋の小麥粉がせいぜい三、四圓であつたものが、一躍十二、三圓から十七、八圓に飛び上り、闇相場は二十圓を遥かに突破した例さへある。これでは、流石に平和な落つきを見せてゐる故都北京の人士でも、じつとして居れなくなつたのである。

勿論奥地の縣城都市に於ても、小麥粉飢饉の痛手は、同樣になめさせられてゐるのであるが、京津都市はなんと言つても興亞北支の建設基地であるからには、かうした現狀を見て手をこまぬいてゐるわけには行かぬ。そこで北支の當面の問題としては、食糧對策が重要課題として登場し、不足小麥粉の手當が惱みの種となつてゐる所以である。



山西省同蒲沿線の小麥畑

さて北支の小麥、北麥を名實ともに叛かざらしめんためには、先づ小麥の增産を圖らなくてはならぬ。北支小麥の增産を圖るには、一に以つて北支の小麥作をして收穫が安全に出來る作物たらしめることにある。

もとよりこれが方策としては、品種の改良、肥培の改善、病蟲害の防除も大いに可なり、大いに奬勵すべきではあるが、小麥作をしてその生産を安泰ならしめるには、何よりも先づ旱魃による災害をとり除かなくてはならぬ。而してこれには灌漑耕作の一途あるのみである。

而も小麥作の灌漑普及は更に跡作に續く夏作にも利用さるゝこととなり、かくて北支の二年三作制は、一歩を進めて一年二作制の域に迄改められるであらう。筆者は思ふ。北支農業の生産面に於る開發目標は、灌漑によつて可及的に二年三作制を一年二作制に更新し、以て灌漑により生産を安定ならしめ、更に多作小麥の作付擴張によつて耕地の生産力を高めることにあると。

されども云ふは易し、由來雨量の少い北支では、灌漑の普及にも、地上水の利用の限度、地下水にしても水位の高低、水量、水質等々によつて著しくその利用を制約せられ、又農家の經濟にも自ら限度があるので、將來北支作付小麥の幾何が灌漑可能なりやは、今のところ容易に豫測を許されない。されど灌漑の普及なくしては、如何に立派な小麥の增産計畫も、それは單なる畫餠にしか過ぎない。

幸ひにして小麥作は、秋收穫する他の一切の食料穀作が、年々水災の被害を受けるのに、こればかりは雨季前に收穫し得るので、小麥の增産にはたゞ一つの天災、旱魃の排除にあるのである。折角天の配劑せし北支の小麥、北麥。筆者はこゝに、當局が速かに小麥增産の具體的方策を樹て、官民一致、灌漑の普及につとめ、北支をして眞に北麥の北支たらしめられんことを希ふものである。（華北交通資業局員）

「健萬」談義

立木四青

支那に住んで誰でも閉口するものに便所の不潔がある。北京のやうな文化都市でも、洋式水洗便所なんてものは大會社か、外人の住宅又は國策會社の高級社宅などに若干設備してあるだけで、日本人でも中流以下の家庭では、この設備の無いものの方が多い。まして支那人の家庭などはよほど大金持でもない限りは、絶對にないと云つてよい。

日本内地でも水洗式の設備のあるものは、都會地に限られてゐるが、假令ためこみ式でも、内地のものは一般に清潔に出來てゐるが、支那の便所となると實に不潔そのものである。第一その構造であるが、大抵中庭の隅か、お勝手の横の空地にアンペラか何かで簡單に圍をして、その中に穴を掘り板を二板渡してあるか、または土中に甕が埋めてある位のもので、甚だしきは此の圍すらないものがあり、その上、先づ厠に入る前から、例の蒜臭い、眼に沁みるやうな刺戟性の强烈な惡臭が襲つて來て、餘程大勇猛心を奮はなければ、初心者などの簡單に入れる處ではない。筆者なども最初のうちは水中眼鏡を掛け、ハンカチに香水をふんだんにふりかけて、その上を手拭でしつかと縛り、辛うじて用を便じたものである。

それでも、こんな便所でも有る處はまだいゝ方で、これさへも無いのが普通である。商店で買物をして一寸後架を拜借といふと、必らず小便ですか、大便ですかと尋ねる。小便と言へば裏の勝手につれて行き、その邊で御自由にと云ふ。大便所はと聞くと沒有と答へる。相當氣のきいた料理店でも、大便所は外の公衆便所を利用してゐるものが多い。

かう云ふと、では大便はどうするんだと御心配になるだらうが、これは夜間小胡同を散歩すると、薄暗がりの所所にしやがんでゐる人物に必ず遭ふ。或は街燈のない處では靴底に異様な感觸を味ふことに依り充分理解できる。尤も最近は警察が大變喧しくなつたので、此の往來を便所と心得てゐる君子も大分減つたが、事變前迄はまだ相當にあつた。薄暗がりどころか朝出勤する時など一度門を外に出ると、お向ひの大哥も、お隣の老爺も、筋向ひの掌櫃的も、中には新聞を讀み乍ら悠々たる老先生もあるといふ狀態で、實に壯觀極るものであつた。

然し婦人は困るぢやないかと、まことにご尤もで、まさか婦人までが街頭進出と云ふ譯にはいかぬ、仍て家庭に便所の設備のない處では、夜壺、馬桶と呼ぶ二種の便器が必らずあり、夜壺の方は小便用（但し、これは紳士用）、馬桶の方は大便用（婦人はこれを兩用する）として、屋内で使用するのだが、これがまた日本人には誠に工合の惡いもので、北京の支那藝者がお客の前でいと簡單に後向になつて使用するやうな、澄んだ心境には仲々なり切れないので困るのである。

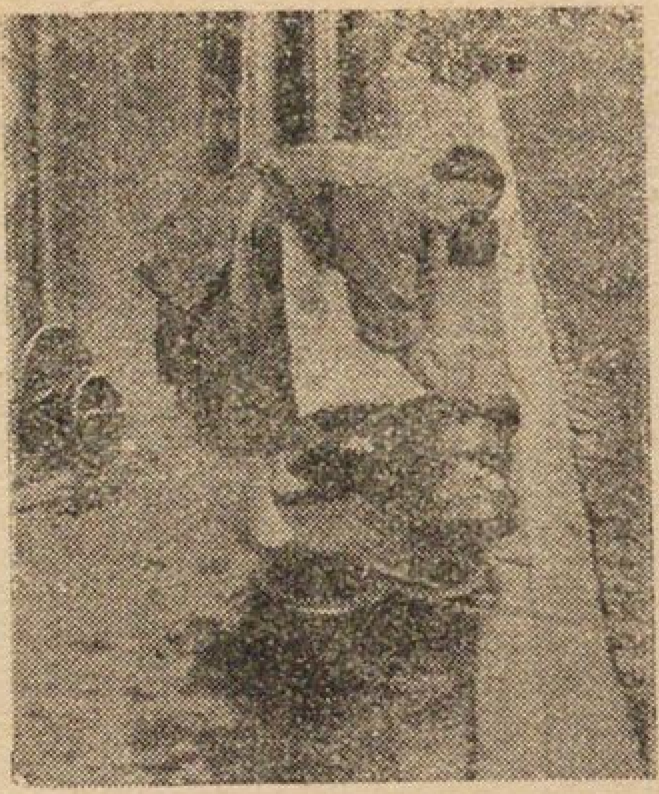
筆者の友人の如きは、蒙疆の田舍を旅行中、宿に便所の設備なく、便器はあつても家人と一緒では使用できず、やむを得ず酷寒零下三十餘度といふ外で、死物狂ひに患部を摩擦し乍ら用を濟したが、これがため遂に凍傷にかゝり危く一命を失ふところであつたとのことである。かうなると支那の便所も正に殺人ものである。この外、崖の上から清流を眺めながら用便中、後方から不意に豚に押倒されて土左衞門になりかけた者や、豚の飼料とするため豚小屋の上に高く作つてある便所へ夜半梯子を登つて、鳥の樣に腕木につかまり乍ら用便中、肥滿してゐるため下の踏板が折れ、豚の汚物の中に眞逆さまに落ちた者など、支那便所綺談といつたものは數へ切れぬほどある。が、それは略して以下清朝時代の宮廷で用ひられた便器に就て御紹介することとしよう。

滿鐵經濟調査會入木奘三郎氏の勞作「支那住宅志」に依れば、支那では既に漢の時代に宮中で内部の裝飾を金銀珠玉で飾つた便所が有つたと記るされて居り、伊藤清造氏の近著「支那及滿蒙の建築」に依ると、「漢朝には玉を以て虎子を爲り、以て便器となし、侍中をして之を執らしめ、行幸には以て從ふ」（西京雜記卷四）とあるから、漢代には既に便所も、便器もあつたことだけは判るが、便所の中に便器を置いて用ひたものか、便器は便器、便所は便所として用ひたか、また其の構造は如何なるものであつたか等に就ては、全然記述されてゐない。

しかし兎に角以上に依つて、餘程昔から支那の宮中では便所も便器もあつたことだけは確かな樣である。だがそ

れが何の時代から清朝に於けるが如く宮中に便所は設備せず、たゞ便器だけ使用する様になつたかに就ては、全然判つてゐない。

清朝の宮中で使用された便器は、夫夫使用者の格式に依つて違ふが、その形態は大體似たりよつたりで、上面に葫蘆形の前方が小さく後方が大きくなつた圓形の穴が、明けてある方形の發（トン）（箱形の腰掛）で、中に横板があり、この横板の上に丁度洗面器を小さくしたやうな、金屬製の盆が置いてある。この盆は上等のものは金製、中等は銀製、一番惡いものでも銅で出來て居り大小種々あつて仲々洒落た形をしたものである。



（朝、往來で馬桶を洗ふ）

用便の時はこの上に腰を掛け、中の盆中にするのだが、用が終ると女官とか媽々と云つた輩がその上に蓋をし、彼女等が汚水を捨てる場所に持つて行つて綺麗に水洗し、磨いた上で仕舞つて置くのである。

この便器が入用の場合は

「下房來人（シイヤフアンライレン）」

と呼ぶと、女官又は媽々が出て來て、男ならば

「健大萬（チエンタアワン）（大便）で御座いますか、健（チエン）小萬（シヤオワン）（小便）で御座いますか」

と尋ねる。以上は、何れも滿洲語の譯音である。

女の場合は

「大官房（タアコワンフアン）ですか、小官房（シヤオコワンフアン）ですか」

と聞いてから、夫々の便器を持參して來るのである。

また屋外或は野外等で急に便器の必要が生じた場合は、豫め持參せる黄色油布製の四角な小屋位の大きさのある幔幕を、太監と稱する宦官が手早く張りめぐらして、之を外部から支へてゐると、女官、媽々がその中に一緒に入つて來て、色々と世話をする。手洗の水を洗面器に入れて捧げてゐる者、袖を後方から引張つてゐる者と云つた工合、これ等は皆跪いてする。

使用する紙は唐紙の厚手のものを、時前に女官が大形のものから手ごろな長方形に裁斷し、十分柔軟になる迄これを揉み、紙の毛立を綺麗に吹き去つて後、便器の横の引出しの中に入れて置くのである。

石鹼は、清末には佛蘭西製の香皂（シイヤンツアオ）（石鹼の支那名）と云ふものを用ひたが、それ以前は猪油胰子（チユユイーツ）（豚の油から精製した石鹼）と云ふものを金鱺とか花漢沖とかいふ當時の一流商店から太監が買つて來たものを用ひた樣である。

手拭は大小種々あるが、全て兩端に美しい刺繡をしてある幅五六寸、長さ三尺許りのもので、女官がその一端をさゝげてゐるものを使用する。

以上のやうな次第であるから、例へば萬壽山であるとすると、誰かが庭に出ると、殿中當番の太監が大聲で

「外請啦（ワイチンラ）」（お出まし）

と叫ぶ。すると、附近の部屋であくびをしたり居睡をしてゐた執事連中が、途端に各自の用具を携行して、後から追驅けて行く。便器關係の者だけでも幔幕を持つ者、便器を持つ者、湯沸しを持つ者、石鹼、タオル、洗面器を持つ者など、實に夥しいお供の者が、絶えず背後に従つて、人間の生理的現象を注意しつゝ歩くのである。斯く想像し來ると、あの俗人界を超脫した豪莊な宮殿樓閣も、聊かユーモラスな感なきにしも非らずではないか。

（滿鐵北支經濟調査所員）

中國の醫者

本間　博

　中國の醫者と云つても、此處では按摩や拔齒の技術者を除いて、漢法醫、洋醫と稱する者に就いてである。漢法醫は疾病を陰陽に病別し、草根木皮とか、龍角麝香と云ふ様な生藥を用ひるもので、其の知識には醫學の實驗科學的な手技はなく、寧ろ藥品の採取時期採取方法、乾燥法、煎浸法、截切搗剉法、又は粉碎等の技術の方が重要である。從つて漢法醫は漢藥商——漢藥商は藥舗と言ひ藥房とは區別せらる可きで藥房と云ふと洋藥店のことである——を兼ね、又は藥舗に傭はれて藥舗と共存して居るものが多い。尤も後者の場合は藥舗の者は漢法醫學の心得があると云ふことの方が妥當かも知れぬ。藥舗では種々の賣藥品をも取扱つて居るが此の賣藥品はなかなか綺麗に出來て居る。小さな採色壺に入れたものや模樣硝子の小瓶に入れたもの等があり有名な六神丸の如きは水牛角製の丸形容器に入れ、更に錦の袋入れと云つた凝つた包裝が施されて居る。又藥品其の物に就いても、例へばカット劑等は日本に於ける藥種商の店頭のものに較べて遙に薄く丁寧に刻んであるが、之も藥品に對する信賴度を高める手段として有効なものである。漢藥店は小さい田舍町でも、土地柄不相應に綺麗な店房裝飾をして居り、又軒數も多い様であるが、此の店構へから見て漢藥舗の生活は比較的上位のものと言ひ得るであらう。又漢法醫の中には藥舗と離れて中醫の看板を掲げて居るものもあり、之等も亦羨まれると言ふ程でなくとも中位の生活をして居る様である。

　話が逸れるが中國農村に於ける家庭藥、賣藥の類は、阿片の浸潤に因り其の進出普及を阻まれて居る樣に說く人もあるが、田邑の藥舗の數と其の店構へを見ると、それは餘りに偏した說としか考へられず、中國農村が夫程阿片に頼つた生活をして居る樣には思へない。事變前の排日氣風が旺なりし頃、天津北京に於ける賣藥のみの主なる販賣商でも、販賣額が年百萬圓は超えて居るし、昭和八年頃に奉天に於て賣出された仁丹類似のものだけで、五六十萬圓に上つたと云ふことである。之等の消化力を有するものとすれば、藥品の形狀や包裝の工夫等に依り、家庭賣藥の進出は大いに期待されて宜いであらう。

　漢法醫の生活が比較的平調なのに較べると、洋醫と稱する者の間には生活內容に於て、一から十迄の差異あることが認められる。正規の醫學校を出た者は主として大都會に集り、高い文化生活を營んで居るが、其の他のもの、乃ち正規の醫學校で習得した者ではなく、病醫院の診療助手を經驗したとか藥局調劑の見習をやつたとか、見様見眞似で治療法を心得たと云ふ連中も少くない數に上つて居る様であり、之等は殆ど田舍の小都市で洋醫の看板を掲げて居る。然し前述の樣に、田舍では藥舗の勢力が絕大なるため之に壓倒され、樂な暮しをして居る者が少く、大部分は何うやら家族の糊口を濕して居る有樣で、粟粥にも事缺く樣な者も少くない。從つて設備とか、手持の藥品とかも名許りのもので、相當惡質のインチキもやり、變つた話だが病人の註文取りと云ふ藝當もやる。此の註文取と云ふのは、巡廻醫者が病人獲得に精進することであつて、甲の町に五日、乙の町に一週間と云つた樣に木賃泊りの流離生活をする者もあり、小さな鐘を叩いて部落から部落へと流れ歩く者もある。斯うなると乞食とも餘り隔りのない存在で、服裝から云つても日本の金時計の御醫者様と同一の觀念には容れられない。惡性インチキの例では製造所も不明な僅か二〇c.c.入のコレラワクチンで、二三十人の注射を行つたと云ふ詐欺漢を捉へたことがある。一人分の注射量で二三人片附けた譯であるが、ワクチンの不足分は冷開水で埋め足して居つたのである。而も腹痛の患者にも頭痛の患者にも注射して置いて、錢を取つたと云ふのだから全く啞然とする。尙調べてみると其の注射液は買つてから約一箇月經つとも云ふのだから、その注射人員二三十名が、彼の手に掛けた一箇月の患者總數とも云へる譯である。

　兎にも角にも似而非洋醫の中で、逞しき婆婆氣と山師氣のある者が大都會の大道に乘り出して來て所謂緣日醫者が出來上り、晏如として醫療を敢行し又夫が許される樣な世界なのだから堪らない。生活が行爲を規定することの許される結果は、斯うした醫者達に消毒の觀念も遙かな浮雲よりも儚いものたらしめ、傳染病患者でも扱はれた場合には、豫防とか撲滅とかよりも定めし流行傳播に役立つて吳れる事であらう。（華北交通保健科學研究所員）

可園雜記

加藤新吉

中國人の日本人に對する感情や觀察を取纏めたものが最近北京の某所から發表された。それに據れば、彼等の日本人に對する心事は甚だ穩かでない。嫌惡、反感、敵意、侮蔑、さういつたものが露骨にぶちまけられてゐる。

曾て知人が排日靑年の一人に日本人のどこが惡くて排斥するのかと聞いたら、どこもこゝも嫌でたまらぬと答へたさうである。人間の蛇に對する如き嫌惡はまことに始末がわるい。彼等の日本人に對する感情が若しさうした種類のものとすれば、日本人が死滅しない限り問題も亦消滅しない。現に、と云つても其儘受取れる話ではないが、日本の男と支那の女とは死滅した方がいゝと云つた中國の紳士がゐる。併しさうした中國人にしても、理想や意思ではどうにもならない感情、蛇に對する如き嫌惡から日本人に反撥するといふのは寧ろ特例と見るべきであらう。

日本人を闖入者と解することから生ずる敵意、相互の接觸から生ずる摩擦特に利害關係の衝突、此等はより一般的且有力な阻隔の原因である。就中、敵意は主として日本及日本人の意圖が正しく理解されない結果で、その除去は至難である。國民政府及國民黨の抗日教育、その結果としての國民意識の確立を說く者は次の時代を待つ他はないとさへいふ。教育のみが人を改造し國家を改造する。我方としても五十年百年を期して教育宣撫に力を注ぐ必要があらう。

相互の摩擦と利害の衝突とは、之亦今日の事態に於て、他が好むと否とに拘らず進んで指導的立場をとらねばならぬ現狀に於て、舊き秩序に安んじ又は諦めて住んでゐた彼等の中に招かれざる日本人の多數が割込まねばならぬ必要の下に於て、一應已むを得ない。たゞその摩擦と衝突とは相手方を理解することに依つて著しく緩和される。其意味に於て、支那を識らぬといふことは日本人の致命的缺陷である。

ところで更にも一つ致命的なものは好かれない上に、嫌はれる上に、侮蔑されるその原因である。これは主として支那に來てゐる日本人を指したのであるが、恐るべき優越感をもち指導者と號してゐる癖に、背德、無教養、呆れてものがいへないと罵つてゐるのである。日本民族を優劣二種に別け、優種は中國人の子孫、劣種は原住日本人の子孫とし、今日支那に來てゐるのは概ね原住劣種の子孫とさへ解釋する彼等、自ら優秀文化民族を以て任ずる彼等がいふだけなら、天狗の鼻の衝合せと思つても濟む。が、環境の變化に基く日本人變質の結果ではないかと自ら疑ひ且寒心するやうな事實があり、爲に大いに大陸經綸が妨げられてゐるとすれば笑つては濟まされない。

思ふに、他を指導するより玆に自を教育する必要があるやうである。支那を認識する前に日本人たる自覺の必要があるやうである。或は優越意識を捨てることだと說く人もあるが、既にやりかけた大陸經營がそれなしにやり遂げられるであらうか。自ら卑うして鄕に從ひ他を眞似て他に似たところでそれだけの話。大國民的自覺と教養との缺除、光榮ある日本人らしくないところに問題は在るのである。君等は大陸に出て荒んだらうとだけで濟まされはしない。島國を出ると同時に變質するやうな國民教育自體、卽刻に建直される必要があるのである。

愛路村

田尻末四郎

新秩序建設戰に於ける交通機關の有する使命は甚だ廣汎に亘るが、就中接敵地域及び主戰地區に於て輸送機關の完備せるや否やは、直接戰術的にも戰略的にも重大なる結果を招來する。

更に戰爭が長期に亘り消耗戰的形態をとる場合に於ては、物資の問題が戰爭遂行上重要な地位を占むるに至る爲に、各國で競つて生産力擴充、物資の圓滑なる配給等の諸問題解決に凡ゆる手段を盡して居るのであるが、この爲に必要なる物を必要なる地方に運ぶと云ふ運送機關の能力の如何が、この問題解決の鍵をなすことは、こゝに贅言を要しないだらう。

例へば、生産力擴充の爲の生産要素の主要部門たる燃料や勞力にしても、そのスムースなる供給のためには、それに足る十分の輸送力を前提とすることは、地球上の空間性を無くせぬ限り明瞭であらう。要するに交通機關は之等諸問題解決の要請に基いて、その運營には萬全の施策が考慮されねばならず、就中重要資源埋藏地であり、接敵交戰に直面しつゝある現地交通機關に於て、特にその要あるは言ふ迄もないことである。

從來支那の鐵道は鑛山と共に各國の資本投資の對象としてのみ考慮されたものであり、又これが經營も地方割據的にして著るしい搾取的色彩を帶び、一般民衆にとつては有難迷惑な存在であつた。他方高率運賃なるに拘らず、數十年間無改修のため効用價値は著しく低減して、所謂急な用事には間に合はないばかりか、借金の利拂だけは頭數に割り當てられると言ふ狀態では、無理もない話である。

それ故にこの蜿蜒と横たはる舊秩序の遺物たる鐵道を、如何なる形に於てか面目を一新せしめて現地中國民衆に呈示することにより、吾々の意圖する興亞恢弘の理念を最も端的に且つ普遍的に感得せしめ、更に鐵道が國家の動脈なることを彼等に認識せしめる一つの教育が必要である。玆に吾々には新らたなる創意を凝らして事變下鐵道の運營に當らねばならぬのである。

民衆の教育が進んだ國に於て、または産業文化の進歩せる國に於て考へられるやうな鐵道に對する觀念を以てしては、中國の鐵道は運營出來ないと言ふことは常識であるが、現地鐵道に負荷されたる任務が重ければ重いほど凡ゆる種類の不良なる環境條件克服のため、凡ゆる手段を竭さねばならない。

單に民衆の教育程度なり産業文化發達の程度が低いと言ふこと以外に、現在戰鬪が行はれて居る地域といふ現實の前に立つ時、輸送機關即ち兵站線の確保には絕對的なものであり、この爲に北支に於ては如何なる考慮が拂はれて居るか。このことは我國民にとつても最も關心と興味を抱かしむる問題でなくてはならぬ。

延長物體――つまり長々と横たはつて居る物體の保護と言ふものは、周圍との接觸面が廣いだけに極めて手數がかゝる。嘗て蔣介石が『日本軍が占領せる地域は點と線のみである』と言つたのは、都會と都會を結ぶ紐帶たる鐵道のみが日本の占有せるものとの意味であるが、今日に於ける戰果は更に擴大して居るとは言へ、この鐵道は未だ常に危險に曝されて居る現狀である。

それは、敵の戰法が著しく遊擊戰的であり、中國紅軍の領袖たる朱德が、「廣汎なる民兵戰」と稱してゐる通り民衆の力を綜合して凡ゆる機會に利用するといふ厄介な戰術を以て、常に後方攪亂を企圖してゐるからである。

然し吾が方に於ても直接警備力の外に、民心を高度に收攬把握してこの交通路線の積極的保護に任ぜしめるといふ方法がとられて居る。之が即ち愛路工作と呼ばれる民衆運動なのである。

叙上の如く兵站線確保と言ふ問題が直接作戰上必要なばかりでなく、交通路線乃至輸送機關の保護が産業、經濟文化等一切の建設に必須不可缺なるが故に、敵の妨害は進んで排除し、更に積極的に新秩序建設の基地たらしめんが爲交通路線周邊各十粁の地帶內に在る村落を組織し之を一般に愛路村と呼んでゐる。正しくは鐵道愛護村、自動車路愛護村、航路愛護村に分ち之を略稱して愛路村と呼んで居るのである。

私は前に、新秩序の何たるかを知らしめるには先づ蜿蜒と横たはる舊秩序の遺物を、吾々の手によつて新らしく彩色して民衆の前に呈示する事が最も適切なそして普遍的に吾が意圖を闡明する方法である事を述べたが、北支に於て硝煙の渦卷く中に凡有困難を排除して皇軍が宣撫の手を先づこの地帶民衆に差し述べ、種子なき者には種子を病める者には藥を――と至れり盡せりの方法を以て眞意の徹底に努めた結果

抗日一色に塗り潰されて居た民衆も漸次覺醒し來り、玆に今日に於ける愛路工作はその緒に着いたのである。

愛路工作は、愛路運動なる民衆運動として採り上げ、之を純粹なる國民運動の形に於て發展せしめることが望ましいので、先づ鐵道の有する國家的使命、國民經濟との相關關係等をよく理解せしむると共に、低級なる民衆なるが故に生活感情に於て理解し得る如く民生向上のための凡有福祉施設を供與して吾が方の意圖を感得させねばならない。かくして民意の動向を決定せる上に於て之が組織を圖り、愛護會なるものを結成せしめ、自主的に國家の動脈たる鐵道を防護せしむるのであるが、現在愛護村數は八千、その村民は一千萬人を超ゆるに至つて居る。

然らば吾が方に於て實施しつゝある福祉施設に如何なるものがあるか。それは着手以來僅かに二年半、しかも硝煙といふ制約を受くるに拘らず支那農村更生の根本策より出發して、着々その成果を收めて居る。

基本施設としては農事試驗場二、鐵路農場（採種、種畜、苗圃）十一ヶ所、模範愛護村、三十二ヶ村、模範育雛場三ヶ所、問事處二百ヶ所、少年隊實習場二百ヶ所、施療所五百二十八ヶ所を算し、その他農民塾の經營も計畫されて居る。

この外、種子配給、病蟲害驅除、苗木配給と愛林植樹思想の普及、種畜の配給、副業獎勵、巡回演劇及び巡回施療、愛路列車の運行等、極めて多岐に亘り、その方法も映畫、講演、パンフレットによる外、實地指導員を配置して實際農民に直接指導が行はれるなど全く至れり盡せりと言ふべきである。

斯る環境の醸成によつて沿線住民も大なる感激を覺え、情報の蒐集、線路の巡察、匪賊擊退等に目ざましく活躍する者日に多きを加へ、今日に於ては一日數百件を算へてゐる。またそのため一ヶ月には數十人の犧牲者をも出す迄になつて居るが、このことは同時に敵側に對しては一大脅威となりつゝあることを物語るものである。

ともあれ、華北交通が大陸に於ける防共ルートとしてその前衛的役割を果すために、愛路工作なる大民衆運動を展開して居ることは、新秩序建設に於ける新らたなる創意が生んだ特記すべき大陸新體制といふべきであらう。

（華北交通警務部愛路課員）

愛護村民活躍件數 自昭和十四年四月至同九月（線路監觀巡察員ヲ含マス）

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	計	平均
京山線	五七八九	六七〇八	六八八六	一五九五一	四八九九	四〇九九	四四三四一	七三八九
京漢線	三	一六四三	八三六八	七六五五	一九一七	一七一七八	三六七六四	六一二七
津浦線	一三九五〇	一三九〇〇	九九三三	二〇一一	四二〇	三五一三	四三七二六	七二九七
京包線	二二六	一五七六	一七一八	一六八一	一三四四	二〇三九	八五八四	一四三一
京古線					三八		三八	六
膠濟線	二四七〇	八四七	四九七	二二〇三	一二一七	三一八二	一〇四二〇	一七三七
石太線		七	一五	一九	三四〇	三五七三	三九五四	六五九
同蒲線	一五	七七二	八五四	一二三四	一四二五	一〇二一一	一四五二一	二四〇二
計	二三四六六	二五四五三	二八二七〇	三〇七五五	一二六〇〇	四三七九五	一六三三三九	二七〇五六

愛路青少年隊婦女團結成現況 昭和十四年十二月末現在

	隊數 青年	隊數 少年	隊數 婦女	隊數 計	員數 青年	員數 少年	員數 婦女	員數 計
天津	三二	六六	四	一〇二	六六六	二五八二	一二〇	三三六八
北京	二〇	一〇	八	三八	五五〇〇	五五〇〇	一七二	一一一七二
張家口		七五	一	七六		三三五〇	二〇	三三七〇
濟南	四八	三	五	五六		三三五〇	二〇	三三七〇
太原	結成中							
開封	〃							
計	一八〇	二六四	一八	四六二	八三七三	一〇四三二	四六二	一九二五七

傳書鳩

北支炭の對日輸出活潑

北支炭の對日輸出は現地に於ける増産計畫と相俟つて事變以來急激な増加を示し、本年度のごときは五月末現在で一昨年度とほゞ同量に達してゐる。この趨勢をたどつてゆけば、今年度は優に三百五十萬トンを突破するだらうと見られてゐる。因に北支蒙疆の石炭埋蔵量は一千七百億トンといはれる。

埋蔵量二億トン 山東に炭田發見

山東省内の地下資源は現下の重工業の重要性加重にともなひ各方面の注目の的となつてゐるが、今回、津浦線泰安（有名な泰山のあるところ）西方、膠濟線淄川、博山の南方に當る萊蕪に埋蔵量推定二億トンの大炭田が發見され關係方面で開發計畫が研究されてゐる。

昨年より豐作 北支小麥實收

今年度の北支四省の小麥實收は一億六千萬ピクルで昨年度の實收高一億三千五百萬ピクルより豐作だが、昨年の水害が祟り耕地の未回復多く平年よりは二割減である。

都市・道路・河川着々進む建設

明朗北支建設の基礎工作、河川改修道路、都市建設の進捗狀況と計畫は大體次の樣である。

▼道路　建設費九百五十萬圓で各地に道路を整備中であるが、とくに治安道路建設に主力が注がれてゐる。そのうち京漢線石門（舊石家莊）と津浦線滄縣を結ぶ二百キロ、北京―天津―塘沽をつなぐ二百キロなどは重要なもの。

▼河川　改修費一千萬圓で當分の間は北京、天津など重要都市の防水施設に重點を置き、將來は利水を考慮して改築擴充する。また子牙河、南運河の水量が天津に到達する以前に渤海灣に注がしむる施設は二千萬圓の經費で順調に進捗中。なほ永定河、白河、滹沱河等の上流にダムを築き農產物增產に資せんとする計畫は注目されてゐる。

▼都市計畫　特別會計一千二百五十萬圓で北京、天津、塘沽、濟南、石門（舊石家莊）の都市計畫を實施中で、防空施設の整備も行はれる。

黃土の實體に新學說

黃土、黃砂の研究を進めてゐた東亞研究所黃土調査委員會では、北京大學教授富田達博士以下一行十二名が今夏灼熱の濟南、泰安一帶の黃土地帶に詳細な踏査を敢行したが、その結果有名なドイツの地質學者リヒトホーヘンの「黃土は中央アジアから蒙古風に吹寄せられた土壤の堆積である」との學說を覆し「北支の黃土は北支自體の岩石の風化作用と黃河その他の河川により運搬されたもので形成されてゐる」と黃土の實體に學術的結論を與へた。博士は「東洋として最も大きな調査を得たことは日本科學者として喜びにたへない」と語つてゐる。

蒙疆の人口 五百六十五萬

蒙疆政府では今春三月以來疆內の戶口、人口調査を進めてゐたが、一進一退の治安狀態下に多大の苦心が拂はれて、純蒙地帶のシリンゴール、ウランチヤツプ、イグチヤオ及びチヤハル各盟の一部を除いてこのほど調査集計が完了した。これによると總計約五百六十五萬で、うち邦人は四萬五千人である。

現地綴方教室「お父さま」

華北交通では母國朝野及び現地の各方面に童心に映つた北支蒙疆に於ける興亞建設の實狀、皇軍將士の奮鬪及び大陸交通の整備完成に邁進する同社員の健鬪ぶりを紹介しようと、廣く社員子弟から綴方と圖畫を募集中であつたが應募作品綴方三百七十、圖畫九十三點の整理が完了、近く五十頁程度の美しいパンフレット「お父さま」を作成し各方面に配付の計畫を進めてゐる。應募作品は何れも純心無垢の童心に映つた事變と父兄の姿であり、眞に涙ぐましいものが多く、兒童の爲の好讀物であると共に大人にも多大の感銘を與へるものである。

長城線貿易 七千萬圓

滿洲―北支間の密貿易は、長城線貿易などと尤もらしい名がつけられ、昨年度の貿易額？は七千萬圓に及ぶといはれる。最近では陸路萬里の長城を突破する戰術のほかに、山海關以北の地點から民船で海路秦皇島に陸揚げする新手が現れた。これらの密輸物資が北支蒙疆の敵地區內に入る數量は相當な額に上るといはれ、密輸の防止による正常貿易の復活は、滿支相互に與へられた重大使命で取締の強化が要望されてゐる。

蒙古語の統一

興亞院蒙疆連絡部ならびに蒙古政府では、現在各盟ごとに不統一で且土俗化された漢語、ロシア語が混入して亂雜となつてゐる蒙古語を統一し、併せて識字運動を起さうと目下準備中で明年度から實施されるガシリンゴル盟、ウランチヤツプ盟

の土語が標準語となる豫定。この試みは新蒙古文化建設途上の障害を除去するものと期待されてゐる。

おみやげには土俗品を

華北交通會社では從來北支蒙疆に手ごろなおみやげ品がなかつたのを遺憾として關係方面と種々研究中であつたが、同社愛路課では管内全愛路村の土產品年額一千百萬圓を商品化し、おみやげ陣の强化と三千萬村民の副業奬勵を計ることに著目種々調査中であるが、有望視されてゐる左記各土產、土俗品を白木屋を通じて日本內地へ、中原公司(北支有數の百貨店)の手によつて北支蒙疆各地で販賣を斡旋することとなつた。一般に歡迎されようと見られるものは道淸線淸化鎭の竹細工、京山線北戴河(避暑地として有名)の蒲細工、津浦線兗州のタバコ、膠濟沿線のレース、ガラス細工等々のほか從來米國にのみ輸出されてゐたといはれる京包支線門頭溝のるり瓦細工などがある。

日本製化粧品華人消費の約八割

往年の排日時代に進出した外國製化粧品類は根强い地盤をもつて日本商品の進出を阻んでゐたが、東亞新秩序建設の今日、外國品が爲替關係のための後退とはいへ、日本品が華人間に大歡迎され、消費量の約八割が日本品とは嬉しい話。

タバコは國產品を

天津に於ける一ケ月のタバコ消費量は三百萬圓で、うち二百七十萬圓が英米トラストの製品三十萬圓が日系品で、敵性タバコ愛用は寒心すべきことと同地興亞奉公會では「國產愛用」運動を大々的に起すこととなつた。

北京の胡同と地價

北京の街は日本のやうに〇〇町とか××町とかで呼ばれず何々胡同(ホウ・トン・露路の意)とむづかしい名がついてゐる。この胡同の數が三千百二十六もあり、邦人はおろか生粹の北京つ子でも半數を知つてゐるものは稀だといはれる。その宅地は十等級に分れ、最上級の西交民巷王府井、前門外、東單、西單一帶は坪二百圓、最下級の城壁一帶で十圓位。尤もこれは地租算定上の標準價格だから實際は倍以上もするといはれる。

日支は同文か?

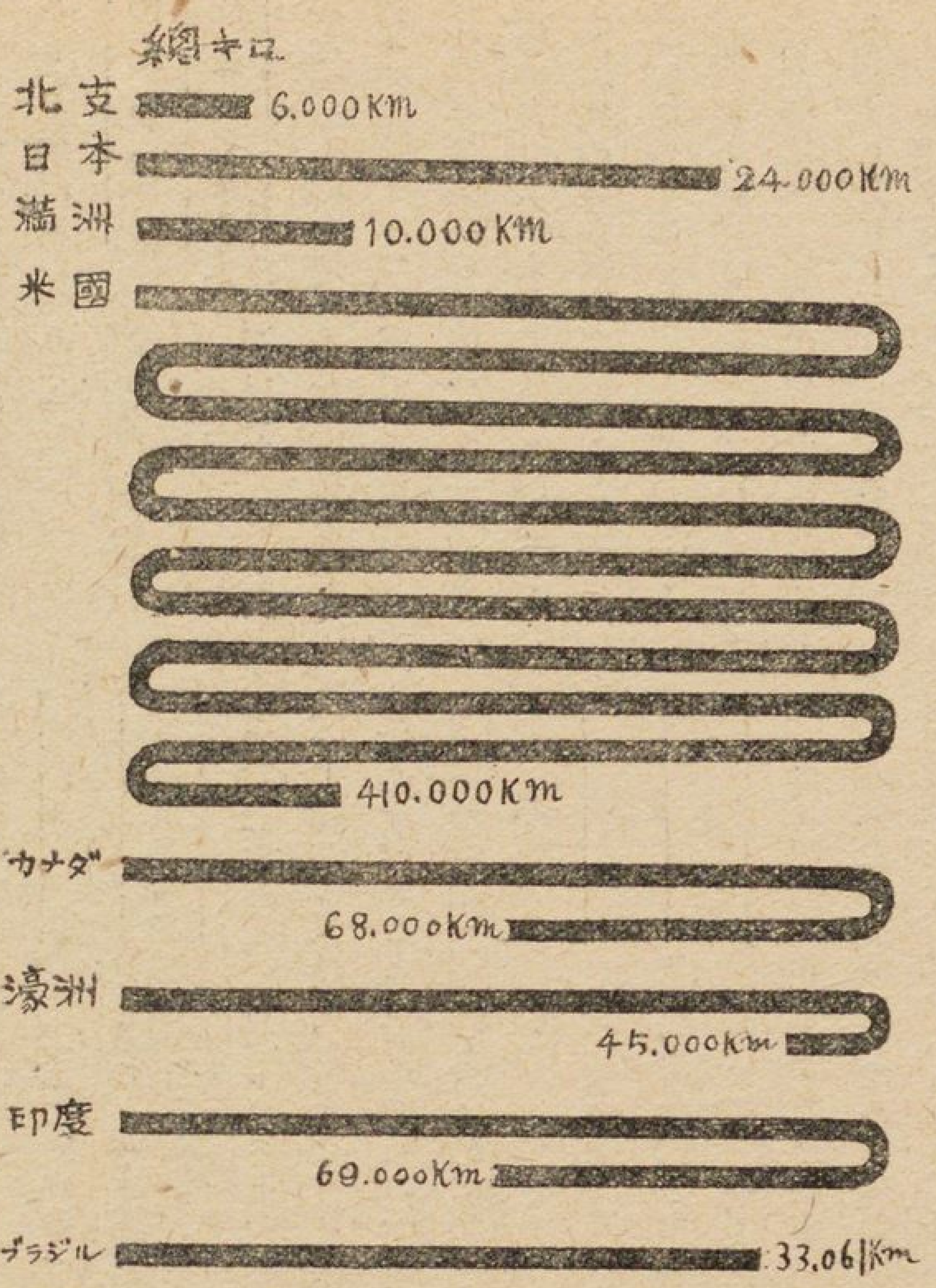
同文同種などとよく使はれる日支の合言葉は果して正當か。同文? のもたらす悲喜劇は相當にある。「東洋」とは日本のこと。昔のことだが「東洋平和の道」が北京の映畫館に上映された時支那人は全部「日本平和之道」と解してゐた。病氣をなほす「病院」が「病氣にかゝるところ」であつたり、「小僧入用」の看板が「小和尙募集」になつたり、「人事課」は「人情課」の意にとられたり樣々である。日本婦人の名など特に支那人には判らぬらしい。「花子」は「乞食」「房子」は「家屋」で、「美子、德子」など、美はアメリカ、德はドイツのことだなどに至つては複雜怪奇である。

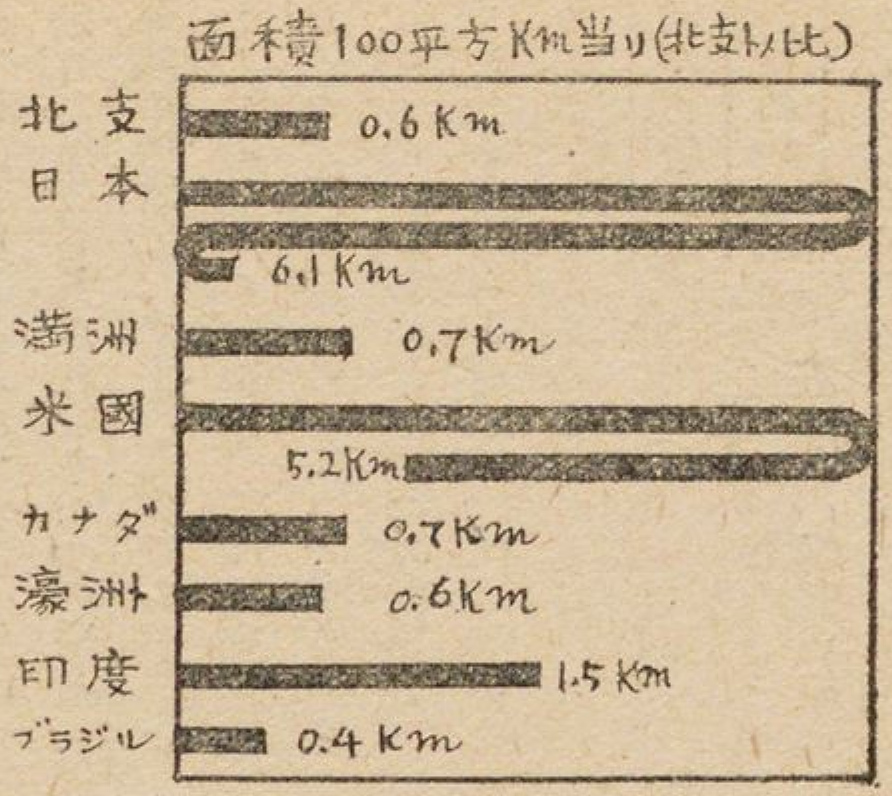
支那料理虎の巻

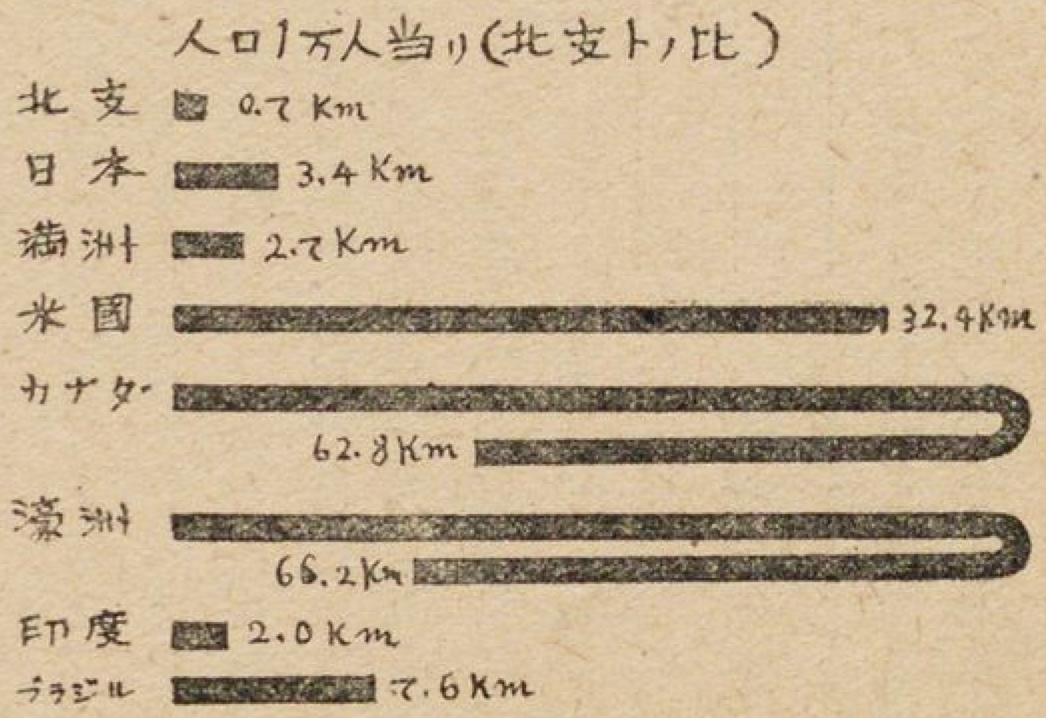
支那料理の種類は無數といつてよいほど澤山あるが、左の基本的な言葉を覺えておくと大體どんなものか判る。

炸・油で揚げたもの。炒・油を用ひ、いためる程度のもの。煎・いためた上、煮るもの。溜・くずかけ。燴・いためて後、汁をたつぷりにして煮たもの。湯・スープ。燜・とろ火で蓋をして長く煮たもの。燒・一度油でいためるか燒くか、或はあぶるかしてもう一度煮たもの。蒸・むしたもの。烤・遠火であぶつたもの。醬・味噌づけ。









鐵道

北支・蒙疆の統計3

アメリカ合衆國があの廣大な國土を統一し、天與の資源を開發して今日の富强を致し得たのは、一に交通網の建設と活用を國策の根幹としたことに因るといはれてゐる。天惠の水運路もさることながら、開拓の先驅者が、萬難を排して鐵道の建設に挺身し、北米大陸を横斷して兩大洋を結び得た日、その國家は完成されたといふも過言でなく、現在世界に冠たる交通網はそのまゝ國力を表示するものに外ならない。

支那はどうかといふに、水運路は古來相當に發達してゐるが近代交通機關たる鐵道の延長は、その國土並に住民に對して甚だしく短少であり、世界の獨立國家中殆ど最低位にある。しかも鐵道は總て列國の利權と政客軍閥の私利の具に供せられ、國家國民の公器ではなかつた。各鐵道は夫々その施設の規格も經營の方法も區々で何等の連絡なく、改良補修等も省みられるところがなかつた。支那今日の悲哀の禍根は此處に在ると謂ひ得るのである。

之等の鐵道は事變以來日本鐵道人の指導によつて著々面目を一新してゐるが、特に北支蒙疆に於ては既に約六百キロの新線建設成り、今日も石炭對日輸出の急に應じて鋭意新建設が遂行されつゝある。六千餘キロの北支鐵道のうち現在華北交通會社の經營下にあるものはその九六パーセント、五千七百キロに達し、殘るは隴海線の開封以西のみとなつた。

新東亞の建設、日支の提携といふも交通の整備なくして絶對に不可能である。更に東亞經濟ブロック確立のため石炭、鐵、鹽、羊毛、棉花等の重要資源を急速に開發し之を全民族のために活用するには、支那特に北支鐵道の整備を焦眉の急務とせられるのである。

昭和十五年九月十五日印刷納本
昭和十五年十月一日發行

十月號（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局資料課 加藤新吉
發行者 東京市麹町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麹町區三番町一 第一書房 振替東京 六四二二三番 電話九段(33)一四一五番 三三四四番

一冊定價㊅三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

廣告取扱 大阪市西區京町堀上通一丁目二五 一手取扱所 一新社 電話土佐堀九三九


NISSEN
痒い皮膚病に
ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。
【特徴】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。
適應症
疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患。
包裝
一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）
日染
ムナバール
Munaval
25g
ムナバール
製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町
發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目



下痢に

吸著療法劑

アルシリン錠

アルシリン錠（銀炭末一分と鹽化銀珪酸四分とよりなる）は腸內の有害細菌を殺滅し、催炎性物質を吸著解毒します。然も消化障碍その他の副作用のない點、理想的の治療藥です。

〔適應症〕 **單純性下痢、腸內の異常醱酵及び腐敗、急・慢性腸カタル、鼓腸、有機性毒素或は食餌に因る中毒症、腸結核の下痢、腸チフス、赤痢等の下痢に實用せらる。**

〔藥價〕 三〇錢・五〇錢・一圓・一圓八〇錢　知名藥店にあり。



製造發賣元　大阪市道修町　株式會社　**武田長兵衛商店**

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十五年九月十五日印刷納本　昭和十五年十月一日發行（毎月一回一日發行）第十七號

北支（亭）定價三十錢